

エコアクション21 環境経営レポート

対象期間 2024年4月1日～2025年3月31日



®環境省

エコアクション21

認証番号 0007548

ASPEC

株式会社 アスペック

2025年7月7日 作成



目次

1. 組織概要	1
2. 認証・登録の対象組織・活動	2-3
3. 主な実績	4
4. 環境経営方針	5
5. 環境経営目標及びその実績	6
6. 環境活動計画	7-16
7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	17-25
8. 環境関連法規制の遵守状況	26
9. 代表者による全体の評価と見直し	27



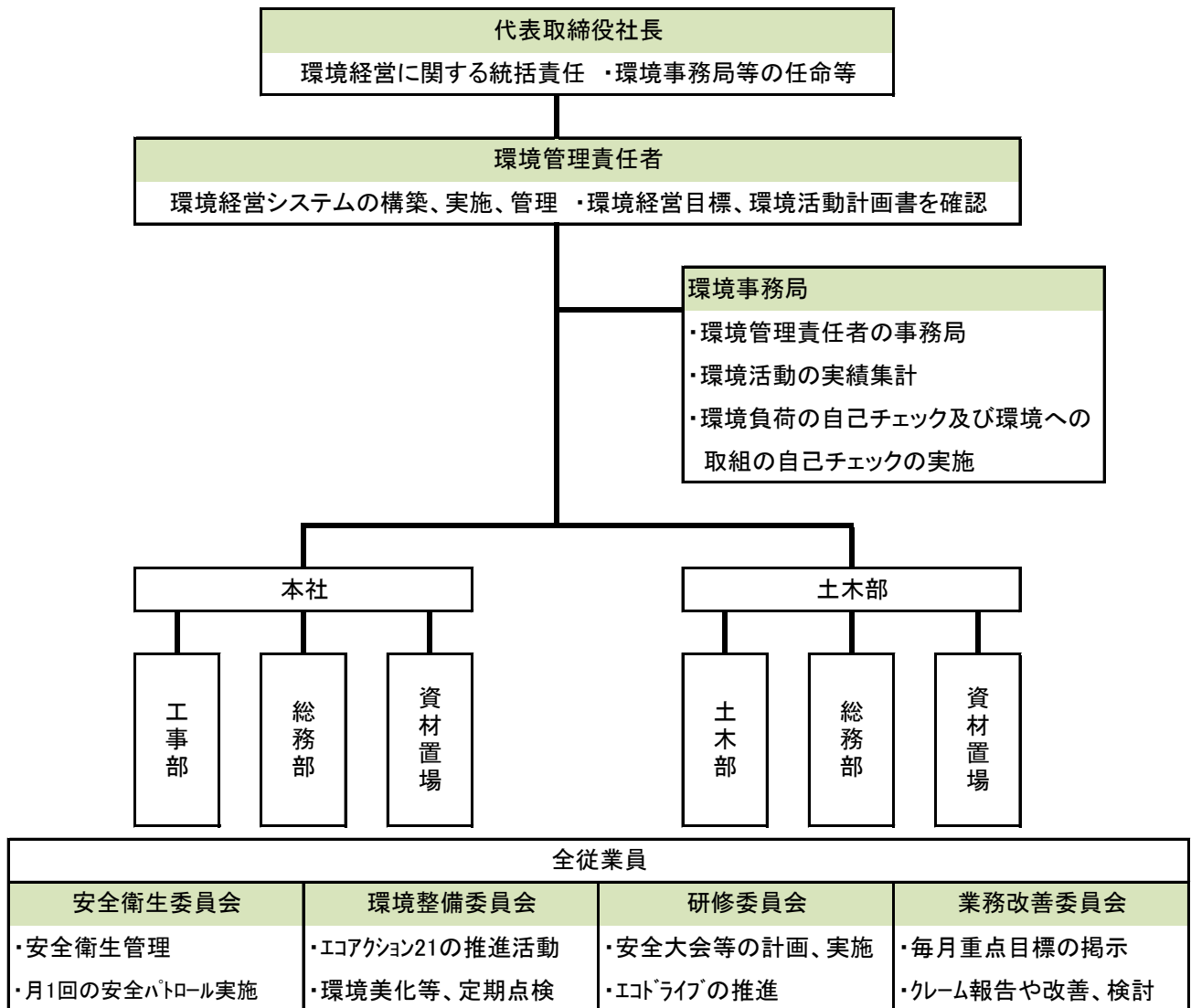
1.組織概要



■ 事業者名及び代表者名	株式会社 アスペック 代表取締役 楠 茂夫
■ 所在地	本 社 長野県長野市大橋南二丁目15番地 土 木 部 長野県長野市南長池478番地1 資材置場 長野県長野市真島町真島字梵天東沖1148他 資材置場 長野県須坂市八町
■ 環境管理責任者氏名 及び担当者連絡先	環境管理責任者 荒井勇治 担当者及び連絡先 工事部工事課 荒井勇治 総務部総務課 倉又麻江 本社 電話:026-283-2051 FAX:026-284-8699 土木部 電話:026-244-1608 FAX:026-259-2986 HP: http://kk-aspec.co.jp/ E-mail: aspec@ec5.technowave.co.jp
■ 事業内容	建設業 土木工事業・舗装工事業・道路側溝補修及び産業廃棄物の収集運搬業
■ 事業の規模	
設立年月日	平成 4年 1月 1日
資 本 金	5,000 万円
売 上 高	1,908 百万円
	第34期(令和6年4月1日～令和7年3月31日)
従 業 員	45 名
延べ床面積(本社)	1,139 m ²
延べ床面積(土木部)	387 m ²
敷地面積(資材置場)	1,976 m ²
敷地面積(土木部資材置場)	17,836 m ²

2. 認証・登録の対象組織・活動

■ 対象組織



2. 認証・登録の対象組織・活動

■ 対象範囲（認証・登録事業者名）

登録事業者名	株式会社アスペック
対象事業所	本社・資材倉庫（常駐者なし）、土木部、全組織・全活動・全従業員を対象
活動範囲	土木工事業、舗装工事業、道路側溝補修業 及び 産業廃棄物の収集運搬

■ 許可の内容

◆ 建設業

許可番号	長野県知事 特-1 第17532号
許可の有効期限	令和7年2月17日 ～ 令和12年2月16日
建設業の種類	土木工事業、舗装工事業、道路側溝補修業、産業廃棄物の収集運搬

◆ 産業廃棄物収集運搬業

許可番号	長野県知事 第2008056549号
許可の有効期限	令和5年10月12日 ～ 令和10年10月11日（令和10年10月11日）
産業廃棄物の種類	がれき類、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず

■ 産業廃棄物収集運搬の状況

収集運搬実績	（受託）業としての実績	630.73 t
自社収集運搬実績		1573.96 t

■ 施設等の状況

積替え保管	なし			
運搬車両の種類と台数	1 tトラック	1 台	4 t コンテナ	1 台
	2 t ダンプ	2 台	8 t トラック	1 台
	3 t ダンプ	5 台	10 t トラック	1 台
	4 t トラック	2 台	10 t ダンプ	4 台
	4 t ダンプ	3 台		



3.主な実績

■ 環境負荷の実績

項目	単位	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量	kg-CO2/年	501,460	410,387	395,490
電力(事務所)	量 (kWh)	35,600	32,620	33,749
	料金 (円)	3,246,090	1,899,580	2,143,108
灯油(事務所)	量 (L)	3,463	2,594	2,916
	料金 (円)	413,752	331,661	36,027
ガソリン (現場)	量 (L)	22,675	25,273	25,731
	料金 (円)	3,776,175	4,404,866	4,349,058
軽油(現場)	量 (L)	162,127	126,882	119,718
	料金 (円)	18,264,328	17,823,848	16,005,081
液化石油ガス(LPG) (現場)	量 (kg)	2,198	1,293	1,710
	料金 (円)	645,787	336,680	432,710
廃棄物排出量				
一般廃棄物(事務所)	量 (kg)	845	1,040	1,392
産業廃棄物(現場)	量 (t)	4,334	2,990	2,205
水使用量(事務所)	量 (m3)	736	737	864
ネプラス工法(現場)	千円/年	15,235,000	9,790,000	4,250,000
太陽光発電 (事務所)	kWh/年	33,418	33,570	18,534

※購入電力の排出係数は、R5.1.24環境省・経済産業省公表：「エーグリーンリテリング」 0.428 (kg-CO2/kWh)
(令和3年度の実績 調整後排出係数)

4. 環境経営方針

◆ 理念 ◆

アスペックは舗装工事を主とした土木関連事業を通じ、企画提案力と顧客最優先のサービスで地域社会に貢献する建設会社として、当社が掲げる『明るい職場と家庭の繁栄を創造します』の経営理念に繋がる、地球環境の保全を企業活動の最重要使命とします。

◆ 経営方針 ◆

私たちは、これからの地球環境との調和を図れる技術の推進、環境保全が重要課題との認識に立ち、次世代を担うにふさわしい専門工事業者として、環境に配慮した職場づくりと、一人ひとりの社員が主役の環境貢献活動が不可欠であることを念頭に、常に新しい創造性に挑戦し、循環型社会の一翼を担う企業として、自主的・積極的に環境への取り組みを推進します。

また、次世代に繋がる環境活動の推進としてSDGsの目標である「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を達成する為に貢献していきます。

◆ 行動計画 ◆

具体的に次のことに継続的に取り組みます。

- 1) 電力・自動車及び重機械燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- 2) 建設資材の省資源、廃棄物の3R（減量、再使用、再利用化）の推進
- 3) 水資源の節水
- 4) コピー用紙の削減
- 5) 環境に配慮した施工（ネプラス工法）の推進
- 6) SDGs達成に向けた取り組み
- 7) IT・AIの導入



環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。




制定日 2010年10月26日
改定日 2020年7月1日
改定日 2021年8月23日
改定日 2022年6月30日
改定日 2023年7月4日
改定日 2024年7月30日

代表取締役社長 楠 茂夫

6.環境活動計画(詳細)

電力使用量削減	7 2025年以降の目標に 取り組むこと	12 つくる責任 つかう責任	13 関係者共に 気候的な影響を	担当部署：総務部
<p>① エアコンの温度管理 冷房：26℃ サーキュレータの活用 暖房：22℃ 冷たい外気が入らないよう、ドアの開け閉めの工夫</p> <p>② パソコン、プリンター等のスリープモードの活用</p> <p>③ 昼休み時の消灯 消灯時間：12時～13時の1時間</p> <p>④ ノー残業デーの徹底、クールビズの長期化</p> <p>⑤ 時間外における部分点灯 時間外勤務時における照明は、必要最小限の範囲のみとする</p>				
				
			天井に空気循環用プロペラ設置	節電の心がけメッセージ

灯油使用量削減	7 2025年以降の目標に 取り組むこと	12 つくる責任 つかう責任	13 関係者共に 気候的な影響を	担当部署：総務部						
<p>①暖房機（ファンヒーター、ストーブ）使用時の室温の温度管理</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th style="width: 50%;">使用期間</th> <th style="width: 50%;">温度</th> </tr> <tr> <td>11月～4月</td> <td>22℃以下</td> </tr> </table> <p>②灯油の給油時期の管理と使用前のフィルター等の清掃</p> <p>③不使用時の電源オフ</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th style="width: 50%;">使用しない期間</th> <th style="width: 50%;">5月～10月</th> </tr> </table> <p>④ウォームビズの実施</p> <p>⑤ブラインドの調節で太陽光を有効利用する</p>					使用期間	温度	11月～4月	22℃以下	使用しない期間	5月～10月
使用期間	温度									
11月～4月	22℃以下									
使用しない期間	5月～10月									
										
			室内温度掲示							

ガソリン・軽油使用量削減	7 2025年以降の目標に 取り組むこと	12 つくる責任 つかう責任	13 関係者共に 気候的な影響を	担当部署：工務部
<p>①車両の適正運転（エコドライブの推進） 現場に見合った重機の選定、 unnecessary 道具の積載禁止で車体を軽くする努力をする タイヤの空気圧のチェック 環境に配慮した運転「エコドライブ」で燃費を向上させ、二酸化炭素などの排出量を減らす</p> <p>②アイドリングストップの励行</p> <p>③車両・建設機械の定期点検 定期的な点検整備をして、燃費と安全性を向上させる オイル交換をこまめにして、燃費を向上させる</p> <p>④効率的なルートを選択 カーナビの積極的な利用で、効率的な営業ルートの策定をする</p> <p>⑤建設機械の対策型機種種の優先使用と購入の検討</p> <p>⑥機械操作の向上</p> <p>⑦ハイブリッド車に全車変更</p>				
				
			エコドライブ講習会	

一般廃棄物排出量削減



担当部署：総務部

①ごみの排出量の把握と管理

把握方法	ごみの回収前に必ず計量
------	-------------

②ペーパーレス化

複写機の機能（スキャナ機能、両面・集約印刷）を積極的に利用する

Faxをデータ受信。必要な物だけプリントアウトする

パソコンからの印刷の前にプレビュー画面で確認してから印刷してミスコピーの削減に努める

③リサイクルの徹底

社内書類は裏紙（機密文書は除く）を使用する

両面使用済みの用紙はリサイクルにまわす

社内文書は使用済み封筒を再利用する

メモ用紙やスクラップ台紙への利用



古封筒再利用

④ごみの分別の徹底

従業員の分別意識が向上するよう、分かりやすくポスターなどを掲示

法定保存年限が経過した帳簿書類等は、随時処分する

⑤ゴミを持ち込まない

マイカップの利用や、再利用できる容器の使用（お弁当箱等）



コピー用紙再利用

廃棄物の重量の視覚化

ごみ分別時に重量を計測し表に記入することで、数値を視覚化する

産業廃棄物排出量削減



担当部署：工務部

①廃棄物の適正処理

マニフェストにより適正処理し、許可を受けた産廃処理委託業者に引き渡す

②産廃排出量の把握

把握方法	産業廃棄物管理票（マニフェスト）による把握
------	-----------------------

③分別のルール

現場	施工場所で分別してから運ぶ
第1資材ヤード	燃えるもの、廃プラ、木くず、金属くずに分ける
土木部	木くず、ダンボール、ダンボール以外の紙、廃プラ、鉄くずに分別する

④3R活動

Reduce(リデュース)：減らす

Reuse(リユース)：再利用する

Recycle(リサイクル)：再資源化する

水使用量削減



担当部署：総務部

① 日常的な節水

節水のステッカーを貼り、節水の意識を高める

② 井戸水のメーターの管理

③ 水漏れの点検と管理

総務部で点検を行い、水漏れ等の不具合があった場合はすぐに対応する

④ 使用後は確実に栓を締める。水量を抑えるために元栓の調整をする



節水呼びかけメッセージ

ネプラス工法の推進



担当部署：工務部

① 受注先、現場でのネプラス工法の提案

公共工事	道路改良工事、側溝改良工事、道路維持修繕工事等
環境	建設廃材80%削減、掘削残土は100%削減、CO2排出量77%削減
リサイクル	側溝の使える部分（上部以外の部分）は利用

② ホームページで情報の公開

当社ホームページ <http://kk-aspec.co.jp> にて施工実績やネプラス工法について詳しく掲載

③ ネプラス工法の講習会への参加

講習会に出席することで、業界内での情報交換などを行う



側溝の痛んだ部分だけ取り除き使える部分は利用する



太陽光発電 電力量の把握



担当部署：総務部

① 社屋2F・3F屋根に太陽光パネルが設置されている

208.4W×129枚

② 毎月の電力量・売電金額を把握していく



地下水循環型地中採放熱システム工法協会の会員登録

二酸化炭素排出量を実質ゼロにする目標に向かって、再生可能エネルギーの1つである地中熱の利用を促進するため、当社は、地下水循環型地中採放熱システム工法協会に会員登録しています。

システムの構築に向けた研究段階から熱交換槽等の施工に携わり、実用化された現在も普及に努めています。

※地下水循環型地中採放熱システム工法協会パンフレットより抜粋

再生可能エネルギー地中熱利用のメリット

空気熱源と地中熱源を比べたら

冷房時ヒートポンプの動き

空気熱源冷却 23℃
地中熱源冷却 15℃
外気温 7℃

暖房時ヒートポンプの動き

空気熱源冷却 50℃
地中熱源冷却 35℃
外気温 0℃

重要なポイントは、供用開始後の地中熱源温度。初期温度(15℃)を如何に維持するか。

地下水循環型地中採放熱システムとは

①地中採熱の産とし穴 ②熱枯れない地中採熱の例 ③人為的な地下水流れを如何に創る

Heat-Gw-Powerの概念図

NEDOと共同研究を実施(2014-2018年)

更にコストパフォーマンス高めたCASCADE

	Heat-Gw-Power*基本型	Heat-Gw-Power*CASCADEタイプ	オープンループ方式
イメージ	NEDOと共同開発技術	2次採熱	従来の技術
取水方式	開穴取水・開穴取水	連続取水・連続取水	連続取水・採熱後中還元
取水率	30% (少)	50% (中)	100% (大)
熱媒特性	熱ポテンシャル低位	熱ポテンシャル中位	熱ポテンシャル高位
評価	△	△	△

地下水循環型地中採放熱システム工法協会



CO2排出量可視化・削減の促進

長野地域脱炭素実現推進協議会に加入し、長野市からの補助金を活用し、「CO2排出量可視化・削減」に取り組んでいます。

「地域ぐるみの脱炭素を実現し、長野地域の未来を切り拓く」を合言葉に活動しています。



6.環境活動計画(その他)

タブレット端末導入   担当部署：総務部

必要なデータをクラウド（BOX）に保管。会社外からでも必要なデータを見たり、書き込んだりすることが出来るようにした。
移動の時間を省き、効率よく業務を遂行し生産性を上げる。

2023年度売上高	2024年度売上高
2,445,000,000円	1,908,000,000円

537,000,000
円減少↓

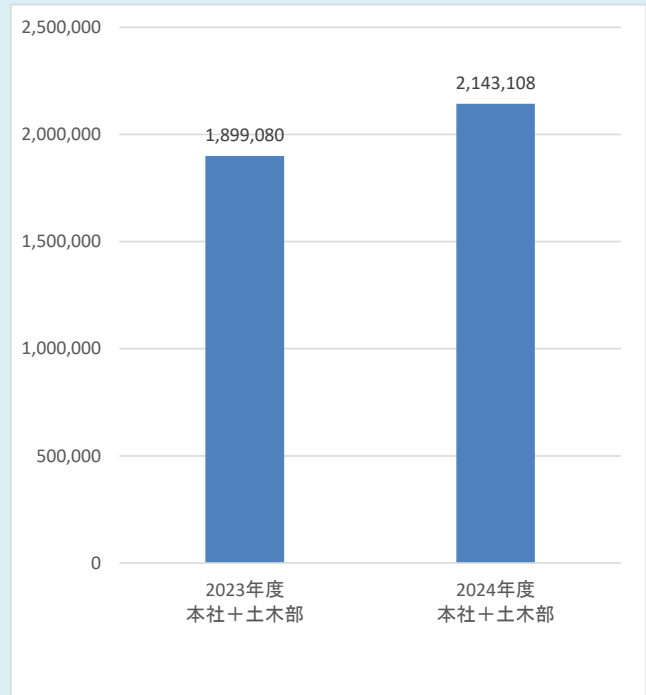
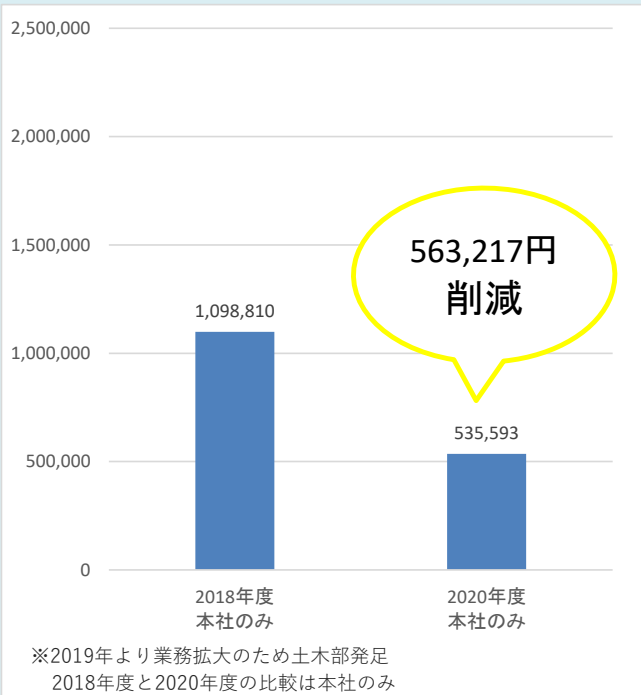
manifestoの電子化   担当部署：総務部

manifesto情報を電子化し、排出事業者、収集運搬業者、処分業者の3者が情報処理センターを介したネットワークでやり取りする。
印刷作業がなくなることで、業務効率が上がる。

2023年度使用件数	2024年度使用件数
35件	82件

47件増加

2019年10月より購入電力会社をイーレックス(株) (エバーグリーン・リテイリング(株)) にすることによりコスト削減



企業活動を通して、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に意欲的に取り組む企業等を登録・PRする長野県独自の制度



SDGs達成に向けた経営方針

弊社の経営理念である

「私たちは企画提案力を最大限発揮し顧客最優先のサービスで地域社会に貢献すると共に、明るい職場と家庭の繁栄を創造します」は、SDGsの達成と目的を同じくするものであり、社員一人ひとりがそのことを自覚してそれぞれの役割を果たしていくことによりSDGsの達成に貢献していきます。

SDGs達成に向けた重点的な取組

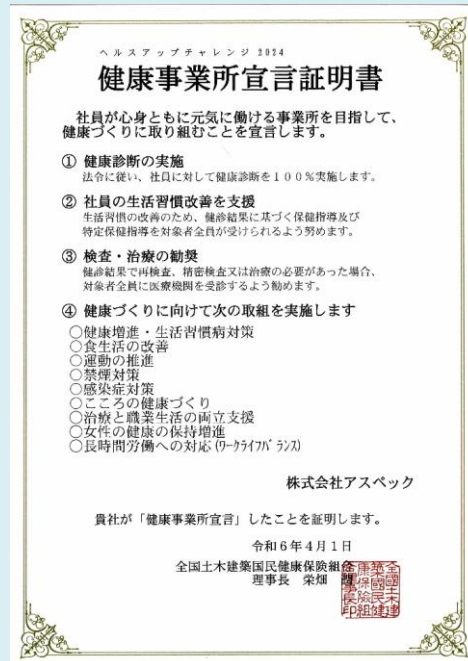
重点的な取組	2030年に向けた指標	指標の進捗状況 (2025年3月31日現在)
エコアクション21の活動に沿ったCO2の削減	CO2排出量の20%削減	2020年度：531,695kg/CO2 ↓ 2024年度：395,490kg/CO2
ネプラス工法の普及（コスト低減・省資源・省エネ・工事期間の短縮）	年間受注件数 10件	年間受注件数⇒2件
労働生産性向上に繋がる合理化手法の導入件数	IT・AI等の導入含め5件	特になし



健康経営優良法人認定



社員とその家族が安心して幸せに暮らしていけるような仕組みを作りたいという思いから「健康経営」の取組を進めてきました。
「ヘルスアップチャレンジ」宣言をし、社員が心身ともに元気に働ける事業所を目指して活動しています。



地域貢献

長野市消防団協力事業所表示制度

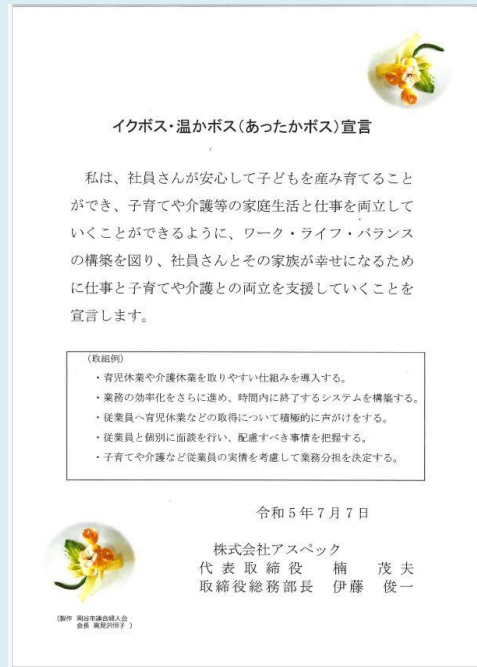
地域の一員として、地域活動を通じて地域との交流を深めると共に、災害発生時には、防災活動に協力します。消防団員の活動しやすい環境を整えています





「社員の子育て応援宣言」・「イクボス・温かボス宣言」

社員が安心して子どもを産み育て、子育てや介護等の家庭生活と仕事を両立していくことができるよう「社員の子育て応援宣言」と「イクボス・温かボス宣言」をしました。



寄付型自販機の設置

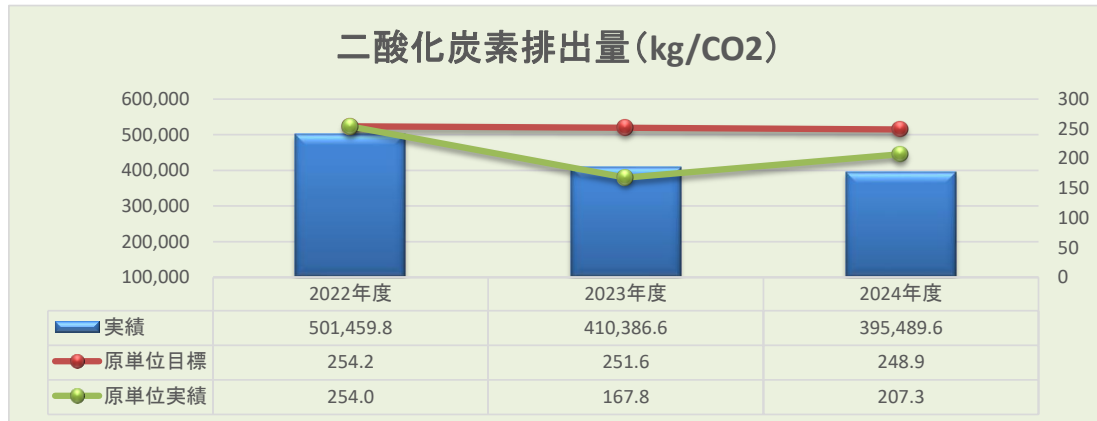
自販機を媒体として市民へ利用して頂き、子育て支援に対する啓蒙活動を広め、市の「ヤングケアラー」の支援に活用して頂くよう、「長野市子育て支援自動販売機」を設置しました。



7.環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

二酸化炭素排出量削減

取組目標：基準年度実績より2%減



■総量■

目標	実績	達成率	評価
491,430.6 kg-CO2/年	395,489.6 kg-CO2/年	124.3%	達成

■原単位■

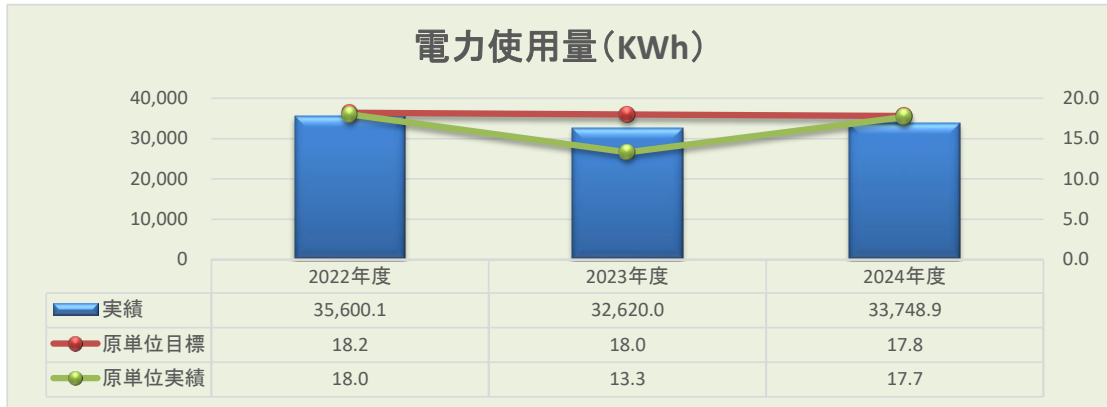
目標	実績	達成率	評価
248.9 kg-CO2/百万円	207.3 kg-CO2/百万円	120.1%	達成

◆取組結果

総量・原単位とも目標を達成することができた。売上高が減少したため、それに比例し排出量も減少した。原単位実績は昨年よりも増加してしまった。

◆次年度の取組

- ・講習会などを継続して行い、社員一人一人の意識を高める。
- ・古い車両や重機の更新、ハイブリット車への買い替えを順次進めていく。



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
34,888.1 kWh	33,748.9 kWh	103.4%	達成

■ 原単位 ■

目標	実績	達成率	評価
17.8 kWh/百万円	17.7 kWh/百万円	100.6%	達成

◆ 取組結果

総量・原単位ともに目標を達成することができた。
 平年よりも気温の高い日が続きエアコンの使用が増え、昨年よりも実績が増加してしまった。だが、完全週休二日制になったため全体的に使用量を削減することができた。

◆ 次年度の取組

- ・ 設定温度の徹底、エアコンフィルターの清掃を行う。
- ・ 所定労働時間内での業務ができるように効率の良い割り振りや、日程調整をする。
- ・ 省エネ機器へ入れ替える
- ・ クールビズ・ウォームビズの実施する。
- ・ 不使用時は電源を切る。

灯油使用量削減

取組目標：基準年度実績より2%減



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
3,394.1 (L)	2,916.4 (L)	116.4%	

◆ 取組結果

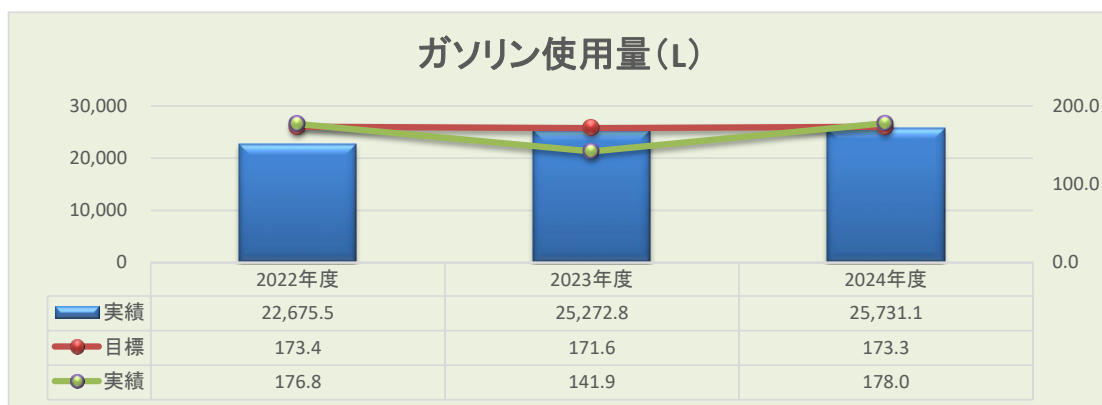
前年度と比較すると実績は上がってしまったが、目標は達成することができた。今冬は全国的に低温傾向になった為、昨年よりも使用量が増加したと考えられる。

◆ 次年度の取組

- ・ 設定温度の管理を徹底する。
- ・ 暖房機器の点検清掃をこまめに行う。
- ・ 不使用时は電源を切る。
- ・ ブラインドを調節し、太陽光を有効活用する。
- ・ ウォームビズの実施等徹底していく。
- ・ 灯油の残量の管理を徹底していく。

ガソリン使用量削減

取組目標：基準年度実績より2%減



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
22,222.0 (L)	25,731.1 (L)	86.4%	×

■ 原単位 ■

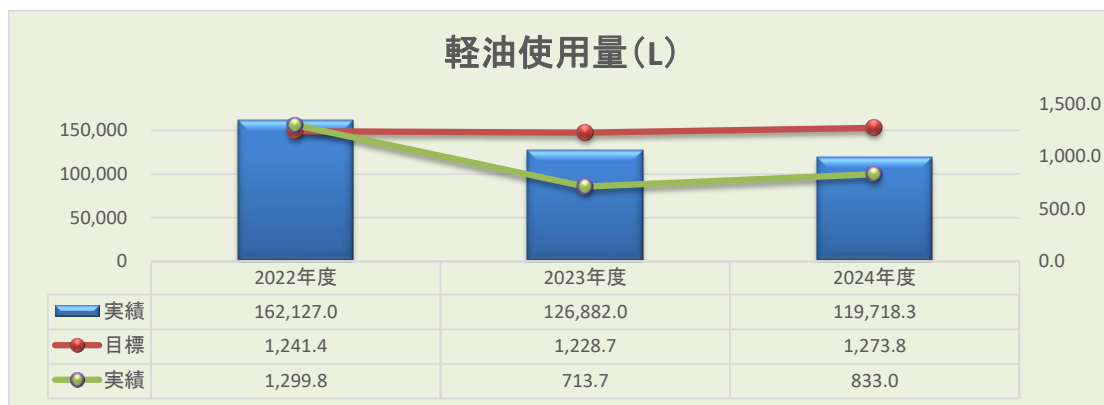
目標	実績	達成率	評価
173.3 (L/百万円)	178.0 (L/百万円)	97.4%	×

◆ 取組結果

総量・原単位ともに目標を達成することができなかった。職員の増加、営業車両の増加に伴い使用量が増加した。増加傾向にある為、エコドライブ等について意識を高めていく。

◆ 次年度の取組

- ・車両や重機の適正運転（エコドライブ）を推進していく。
- ・ unnecessary 道具を乗せないなど車体の軽量化を心掛ける。
- ・カーナビの積極的利用による効率的なルートの算定等を徹底する。
- ・車両増加に伴う使用量増加の把握に注意していく。



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
158,884.5 (L)	119,718.3 (L)	132.7%	達成

■ 原単位 ■

目標	実績	達成率	評価
1,273.8 (L/百万円)	833.0 (L/百万円)	152.9%	達成

◆ 取組結果

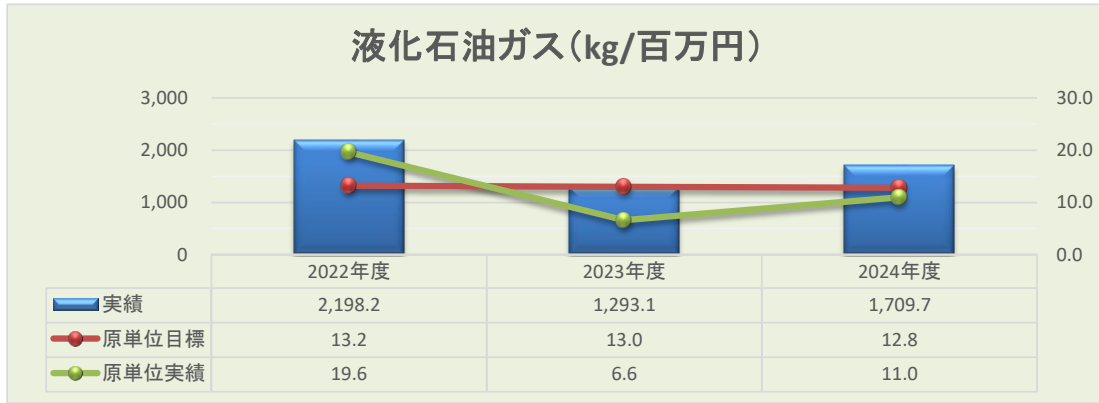
総量・原単位ともに目標を達成することができた。重機、ダンプトラック等の買い替えを行っているため燃費が良くなっている。年々減少傾向にあるので今後も可能な範囲での削減を努める。

◆ 次年度の取組

- ・ 車両や重機の適正運転（エコドライブ）を推進していく。
- ・ カーナビの積極的利用による効率的なルートの算定等を徹底する。
- ・ 排出ガス対策型機械の優先使用と購入を推進していく。

液化石油ガス（LPG）使用量削減

取組目標：基準年度実績より2%減



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
2,154.2 (kg)	1,709.7 (kg)	126.0%	

■ 原単位 ■

目標	実績	達成率	評価
12.8 (kg/百万円)	11.0 (kg/百万円)	116.4%	

◆ 取組結果

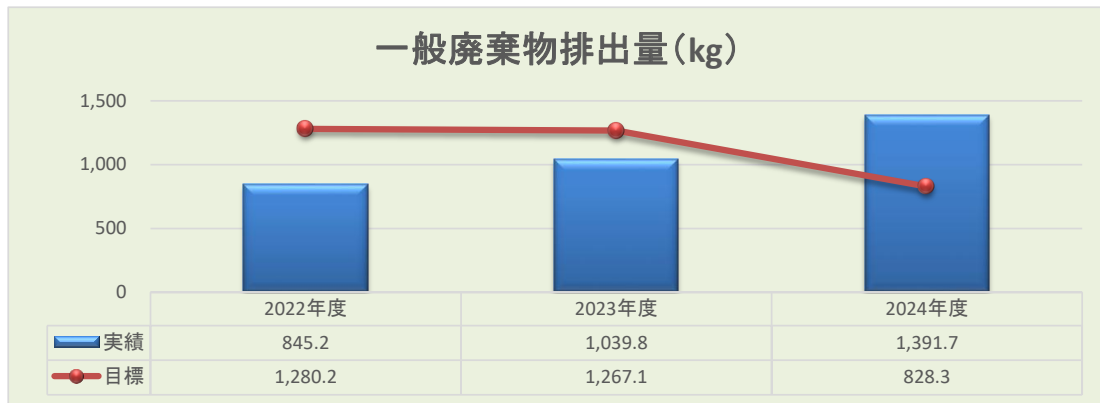
総量・原単位ともに目標を達成することができ
た。
全体的に昨年よりも増加してしまった。

◆ 次年度の取組

- ・ 使用時に節約を意識する。
- ・ こまめな温度設定を心掛ける。

一般産業廃棄物排出量削減

取組目標：基準年度実績より4%減



■ 総量 ■

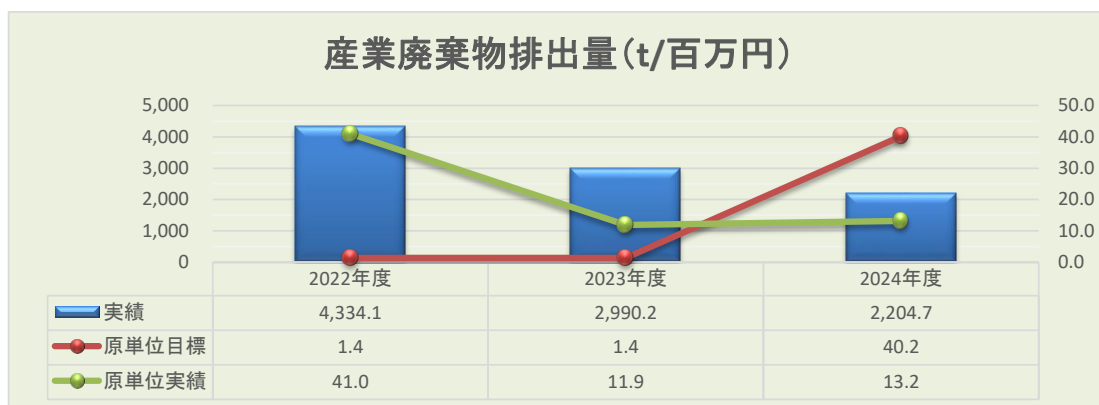
目標	実績	達成率	評価
828.3 (kg)	1,391.7 (kg)	59.5%	×

◆ 取組結果

目標を達成することができなかった。
職員増加に伴い年々増加傾向にあると考えられるが、改めて一人一人がペーパーレス化、ゴミの分別等について考えゴミの削減に繋げていく必要がある。

◆ 次年度取組

- ・ペーパーレス化を推進していく。
- ・ゴミの分別の徹底をしていく。
- ・ミスコピーを減らす。
- ・事務員の増加による要因もあるため、今後の排出量に注意していく。



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
4,247.4 (t)	2,204.7 (t)	192.7%	

■ 原単位 ■

目標	実績	達成率	評価
40.2 (t/百万円)	13.2 (t/百万円)	304.5%	

◆ 取組結果

総量・原単位ともに目標を達成することができた。年々減少傾向にある。

◆ 次年度の取組

- ・安全パトロールでの確認を行い、引き続き削減に努めていく。
- ・廃棄物の適正処理、産廃排出量の把握、3R運動 分別のルールの周知徹底をしていく。

水使用量削減

取組目標：基準年度実績より4%減



■ 総量 ■

目標	実績	達成率	評価
721.3 (m3)	864.0 (m3)	83.5%	×

◆ 取組結果

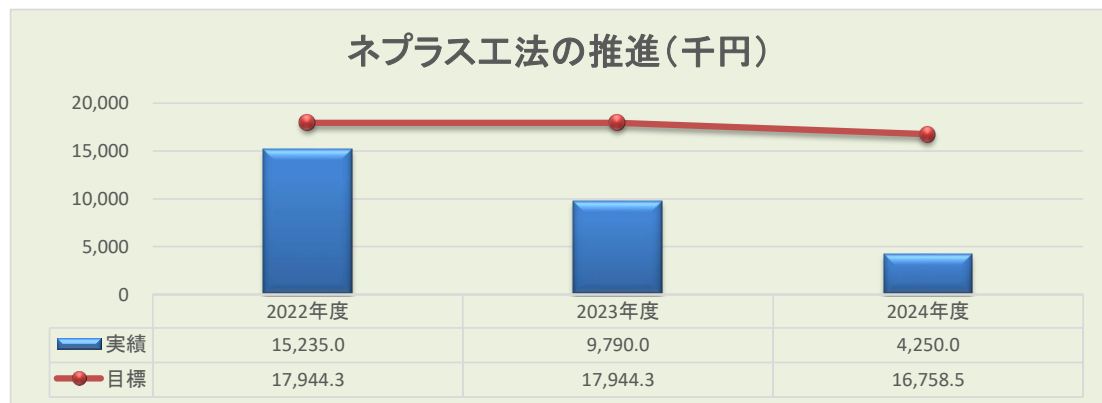
目標を達成することはできなかった。年々増加している為、改めて節水の声掛けを行う。

◆ 次年度の取組

- ・日常的に節水を意識する。
- ・水漏れの点検と管理をこまめに行う。
- ・元栓を調整し水量を抑制する。

ネプラス工法の推進

取組目標：基準年度実績より10%増



■ 総額 ■

目標	実績	達成率	評価
16,758.5 (千円)	4,250.0 (千円)	25.4%	×

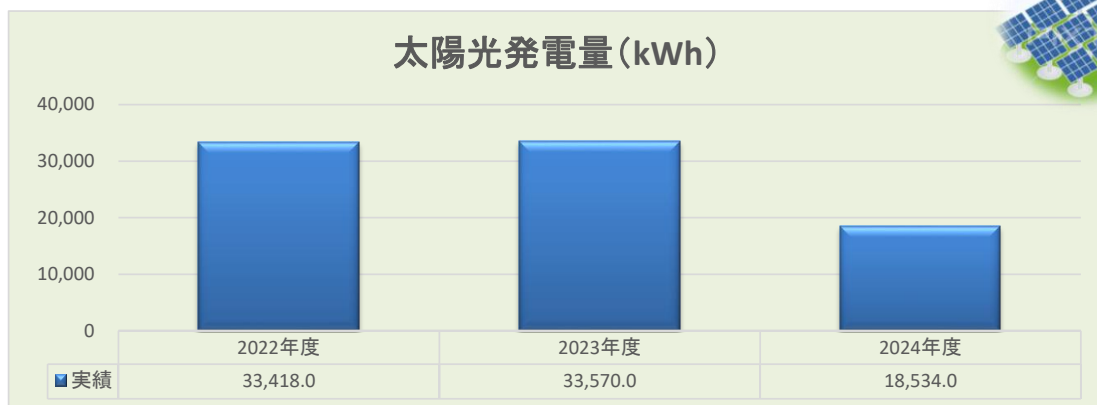
◆ 取組結果

目標を達成することができなかった。受注件数は昨年と変わらなかったが、実績が減少してしまった。

◆ 次年度の取組

- ・現場等でのネプラス工法の提案をする。
- ・パンフレット等で宣伝をする。
- ・ホームページで積極的にPRしていく。

太陽光発電量



■総量■


◆取組結果

天候に左右されるため目標値は持たないが、売電量を知ることで自然エネルギーへの関心を高める。
太陽光発電の不具合により、10月頃から発電が行えていなかった。

◆次年度の取組

- ・引き続きデータの集計をしていく。
- ・太陽光発電が行えているか定期的に確認する

5.環境経営目標及びその実績

環境経営目標項目	単位	基準値		今年度	中長期目標		
		2022年度		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
二酸化炭素排出量 	kg-CO2/年	501,459.8	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	491,430.6	486,416.0	481,401.4	476,386.8
			実績	395,489.6	—	—	—
	原単位(kg-CO2/売上高)	254.0	原単位目標	248.9	246.4	243.8	241.3
			原単位実績	207.3	—	—	—
電力使用量 	kWh	35,600.1	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	34,888.1	34,532.1	34,176.1	33,820.1
			実績	33,748.9	—	—	—
	原単位(kg-CO2/売上高)	18.2	原単位目標	17.8	17.7	17.5	17.3
			原単位実績	17.7	—	—	—
灯油使用量 	L	3,463.4	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	3,394.1	3,359.5	3,324.9	3,290.2
			実績	2,916.4	—	—	—
ガソリン使用量 	L	22,675.5	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	22,222.0	21,995.2	21,768.5	21,541.7
			実績	25,731.1	—	—	—
	原単位(L/百万円)	176.8	目標	173.3	171.5	169.7	168.0
			実績	178.0	—	—	—
軽油使用量 	L	162,127.0	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	158,884.5	157,263.2	155,641.9	154,020.7
			実績	119,718.3	—	—	—
	原単位(L/百万円)	1299.8	目標	1,273.8	1,260.8	1,247.8	1,234.8
			実績	833.0	—	—	—
液化石油ガス(LPG) 	kg	2,198.2	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	2,154.2	2,132.3	2,110.3	2,088.3
			実績	1,709.7	—	—	—
	原単位(kg/売上高)	19.6	原単位目標	12.8	19.0	18.8	18.6
			原単位実績	11.0	—	—	—
一般廃棄物排出量 	kg	845.2	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	828.3	819.8	811.4	802.9
			実績	1,391.7	—	—	—
産業廃棄物排出量 	t	4,334.1	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	4,247.4	4,204.1	4,160.7	4,117.4
			実績	2,204.7	—	—	—
	原単位(t/百万円)	41.0	原単位目標	40.2	39.8	39.4	39.0
			原単位実績	13.2	—	—	—
水使用量 	m3	736.0	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標	721.3	713.9	706.6	699.2
			実績	864.0	—	—	—
ネプラス工法 	千円	15,235	増加率	10%	10%	10%	10%
			目標	16,758.5	16,758.5	16,758.5	16,758.5
			実績	4,250.0	—	—	—
太陽光発電発電量	kWh	33,418	実績	18,534.0	—	—	—

8. 環境関連法規制の遵守状況

(1) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

適用法	要求事項	遵守状況の確認及び評価の結果
廃棄物処理法	委託契約の書面	○
	マニフェストの管理	○
	実績報告書	○
	産業廃棄物収集運搬業許可証 (令和5年10月12日 更新許可)	○
資源有効利用促進法	再生資源利用促進計画書	○
建設リサイクル法	対象工事における再資源化等報告書	○
騒音規制法	特定建設作業実施届出書	○
振動規制法	特定建設作業実施届出書	○
フロン排出抑制法	簡易点検表による管理	○
自動車リサイクル法	引き渡し時における適正な処理 (リサイクル券)	○
家電リサイクル法	引き渡し時における適正な処理 (リサイクル券)	○
消防法	少量危険物の管理	○

(2) 違反、訴訟等

環境関連法規の遵守状況は、4月に環境管理責任者を中心として確認し調べた結果、環境法規への違反はありませんでした。

また過去3年間違反・訴訟の無いことを報告します。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

● 全体評価

(1)	環境経営方針 環境経営方針については変更ありません。
(2)	環境関連法規等の遵守状況 法規等の遵守評価については問題ありません。
(3)	環境経営目標の達成状況 二酸化炭素排出量・電力使用量・灯油使用量・軽油使用量は削減目標を達成できたが、ガソリン使用量・一般廃棄物排出量・水使用量は達成できなかったため今後も削減に努めていく。職員増加に伴う使用量等増加の把握に注意する。 ノー残業デーの励行、休日出勤の際の代休の取得の励行に取り組んでいく。
(4)	環境活動計画の実施状況 スケジュール通りに実施されています。
(5)	実施体制 特に変更の必要はありません。
(6)	外部からの苦情等への対応 特にありません。
(7)	その他 特にありません。

● 見直しの結果

- 昨年度同様、化石燃料削減に向け、手直し工事ゼロを目標に施工を行っていく。
- 各自の技能向上により、作業効率をあげ、CO2排出量の少ない工事を目指す。
- 使用機械や車両のハイブリッド車・低排出ガス機械等への買い替えを進めていく。
- 残業の圧縮努力や休日の増加により、環境負荷を減少させる。
総労働時間が減ったことで、生産性が落ちることのないように、無駄を省いて、効率の良い作業をする。
- 社員とその家族が健康に過ごしていけるよう健康経営に力をいれていく。
- 全体を通して目標の達成ができているので引き続き取り組みを意識していく。

環境経営目標設定書

毎年、代表者による見直しを踏まえて目標値及び達成手段を見直す。

更新日：2025年4月4日

EA21 コア指 標	環境経営方針	取組項目	基準値	今年度			
				2024年度		2025年度	
				2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
二 酸 化 炭 素 排 出 量	電力・自動車及び 重機械燃料の消費 に伴う二酸化炭素 排出量の削減	二酸化炭素排出量の削減	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標値	491,430.6 kg-CO ₂	486,416.0 kg-CO ₂	481,401.4 kg-CO ₂	476,386.8 kg-CO ₂
		基準2022年度	501,459.8 kg/CO ₂	削減率は売上高の状況で変更する	削減率は売上高の状況で変更する	削減率は売上高の状況で変更する	削減率は売上高の状況で変更する
		削減率	2%	3%	4%	5%	
		目標値	34,888.1 kWh	34,532.0 kWh	34,176.0 kWh	33,820.0 kWh	
		基準2022年度	35,600.1 kWh	冷暖房機の温度管理 機器の省エネ設定 不要な照明の消灯 クールビズ・ウォームビズの実施	冷暖房機の温度管理 機器の省エネ設定 不要な照明の消灯 クールビズ・ウォームビズの実施	冷暖房機の温度管理 機器の省エネ設定 不要な照明の消灯 クールビズ・ウォームビズの実施	冷暖房機の温度管理 機器の省エネ設定 不要な照明の消灯 クールビズ・ウォームビズの実施
	灯油使用量の削減	事務所：総務部	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標値	3,394.1 L	3,359.5 L	3,324.8 L	3,290.2 L
		基準2022年度	3,463.4 L	室内の温度管理 不使用時の電源オフの徹底 定期点検と清掃 ウォームビズの実施 防寒着買替	室内の温度管理 不使用時の電源オフの徹底 定期点検と清掃 ウォームビズの実施	室内の温度管理 不使用時の電源オフの徹底 定期点検と清掃 ウォームビズの実施 防寒着買替	室内の温度管理 不使用時の電源オフの徹底 定期点検と清掃 ウォームビズの実施

EA21 コア指 標	環境経営方針	取組項目	基準値	今年度		中長期	
				2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
二酸化炭素排出量		ガソリン使用量の削減 現場：工事部	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標値	173.3 L/百万円	171.5 L/百万円	169.7 L/百万円	168.0 L/百万円
		基準2022年度 原単位 (L/百万円) 176.8 L/百万円	削減率は売上高の状況で変更する エコドライブの励行 アイドリングストップの励行 カーエアコンの適正使用 車両整備の徹底 移動ルートの合理化	削減率は売上高の状況で変更する エコドライブの励行 アイドリングストップの励行 カーエアコンの適正使用 ガソリン使用車両の入れ替え 移動ルートの合理化	削減率は売上高の状況で変更する エコドライブの励行 アイドリングストップの励行 カーエアコンの適正使用 車両整備の徹底 移動ルートの合理化	削減率は売上高の状況で変更する エコドライブの励行 アイドリングストップの励行 カーエアコンの適正使用 車両整備の徹底 移動ルートの合理化	
		削減率	2%	3%	4%	5%	
		目標値	1,273.8 L/百万円	1,260.8 L/百万円	1,247.8 L/百万円	1,234.8 L/百万円	
		基準2022年度 原単位 (L/百万円) 1,299.8 L/百万円	積極的にエコ活動を行い削減に取り組む 削減率は売上高の状況で変更する 不良工事の件数なども把握していく	積極的にエコ活動を行い削減に取り組む 削減率は売上高の状況で変更する 不良工事の件数なども把握していく 軽油使用車両・重機の入替え	積極的にエコ活動を行い削減に取り組む 削減率は売上高の状況で変更する 不良工事の件数なども把握していく	積極的にエコ活動を行い削減に取り組む 削減率は売上高の状況で変更する 不良工事の件数なども把握していく	
廃棄物排出量	建設資材の省資源、廃棄物の3Rの推進	一般廃棄物の削減 事務所：総務部	削減率	2%	3%	4%	5%
			目標値	828.3 kg	819.9 kg	811.4 kg	803.0 kg
		基準2022年度 845.2 kg	分別の徹底とリサイクル 裏紙の再利用を推進 ペーパーレス化を推進	分別の徹底とリサイクル 裏紙の再利用を推進 ペーパーレス化を推進	分別の徹底とリサイクル 裏紙の再利用を推進 ペーパーレス化を推進	分別の徹底とリサイクル 裏紙の再利用を推進 ペーパーレス化を推進	
		削減率	2%	3%	4%	5%	
		目標値	40.2 t/百万円	39.8 t/百万円	39.4 t/百万円	39.0 t/百万円	
		基準2022年度 原単位 (t/百万円) 41.0 t/百万円	削減率は売上高の状況で変更する 5R活動をめざし積極的にエコ活動を行う 不良工事の件数なども把握していく	削減率は売上高の状況で変更する 5R活動をめざし積極的にエコ活動を行う 不良工事の件数なども把握していく	削減率は売上高の状況で変更する 5R活動をめざし積極的にエコ活動を行う 不良工事の件数なども把握していく	削減率は売上高の状況で変更する 5R活動をめざし積極的にエコ活動を行う 不良工事の件数なども把握していく	

EA21 コア指 標	環境経営方針	取組項目	基準値	今年度		中長期	
				2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
水 使 用 量	水資源の節水	水道水の削減 事務所：総務部	削減率	—	—	—	—
			目標値				
			基準2022年度 736.0 m3	1F・2F南側にテナントが入っているため、上下水道使用量は当社が負担の為計測できない。使用状況をチェックし、ルールを守る元栓の調整により水量を調整するポスターを貼り、節水を呼びかける配水管の漏れを点検	引き続きルールを守り削減に取り組む 節水器具の取付を検討 節水の呼び掛け 配水管の漏れを点検 雨水利用の検討	引き続きルールを守り削減に取り組む 節水器具の取付を検討 節水の呼び掛け 配水管の漏れを点検 雨水利用の検討	引き続きルールを守り削減に取り組む 節水器具の取付を検討 節水の呼び掛け 配水管の漏れを点検 雨水利用の検討
環 境 配 慮	環境に配慮した施工	ネプラス工法の推進 現場：工事部	増加率	—	—	—	—
			目標値				
				従業員の技術向上 引き続き維持できるよう取組む	従業員の技術向上 引き続き維持できるよう取組む	従業員の技術向上 引き続き維持できるよう取組む	従業員の技術向上 引き続き維持できるよう取組む

2024年度 環境活動計画書

更新日：2025年 4月4日

電力消費量の削減 (総務部：倉又)

		単位	2024年度 (2024年4月～2025年3月)											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月目標		kWh	3,272.2	3,823.0	2,247.1	3,062.5	3,082.1	2,132.5	2,754.8	2,481.4	1,367.1	4,661.9	3,334.9	2,669.5
		累計	3,272.2	7,095.2	9,342.3	12,404.8	15,486.9	17,619.4	20,374.2	22,855.6	24,222.7	28,884.5	32,219.5	34,889.0
年度目標	基準値 (2022年度)	計画			①									
	35,600.1 kWh		②											
	削減率		③											
	2%				④			④			④			④
	目標値		⑤⑧											
	34,888.1 kWh		⑥		⑦					⑦				
活動実績	実績値	実績	2,174.5	1,326.2	2,240.8	811.1	3,224.3	5,068.9	3,430.2	4,204.2	1,031.3	2,799.7	4,898.5	2,539.2
	33,748.9 kWh	累計 (kWh)	2,174.5	3,500.7	5,741.5	6,552.6	9,776.9	14,845.8	18,276.0	22,480.2	23,511.5	26,311.2	31,209.7	33,748.9
	①エアコンの温度管理	実績			①									
	②不在時のパソコンOFFと省エネ設定		②											
	③昼休み時の消灯		③											
	④エアコン、照明器具の定期清掃			④				④			④		④	
	⑤日中及び時間外における部分点灯		⑤⑧											
	⑥省エネ機器の入替					⑦						⑦		
	⑦クールビス・ウォームビズの実施													
⑧ノー残業デー設置														
パフォーマンス評価			○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	△	○
管理者評価	達成・未達成の原因	残業や時間外の作業を出来るだけ少なくなるように取り組んでいる結果が出ている。	この夏は猛暑が厳しく、エアコン使用が増えたため、月次では未達成の月があった。				現場管理職員が増えて、工事量増加に伴い、事務作業が増えた。残暑が長引いたことも10月はエアコン使用が増えた。				日が短く、電灯使用の機会が増えたため、使用量が増加した。			
	次期四半期の取組方針・指示事項など	猛暑の予報となっているため、エアコンの温度設定の確認や、時間外における使用を減らす努力を行っていく	サーキュレーターなどを使用し、冷房効率が良くなるように工夫する。				気温が下がりはじめたら、窓を開け風通しをよくしエアコンを使用しなくても過ごせるように工夫する。				引き続き定期的な点検・清掃を心掛けていくが、最終的に使用量の削減ができたことは評価できる。			

評価：月次・累計とも達成…○ 月次又は累計が達成…△ 月次・累計とも未達成…× (3ヵ月ごとの評価時に×の場合は是正を追加する)

灯油使用量の削減 (総務部 : 倉又)

		単位	2024年度 (2024年4月 ~ 2025年3月)											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月目標		L	495.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	479.4	330.3	811.7	662.7	614.7
		累計	495.4	495.4	495.4	495.4	495.4	495.4	495.4	974.8	1,305.1	2,116.8	2,779.5	3,394.1
年度目標	基準値 (2022年度)	計画	①							①				
	3,463.4 L		②							②				
	削減率		③							③				
	2%		④											
	目標値		⑤											
										⑥				
活動実績	実績値	実績 (L)	295.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	199.5	698.7	500.5	807.4	415.0
	2,916.4 L	累計	295.3	295.3	295.3	295.3	295.3	295.3	295.3	494.8	1,193.5	1,694.0	2,501.4	2,916.4
	①暖房機 (ファンヒーター、ストーブ) の温度管理	実績	①							①				
	②灯油の給油時期の管理		②							②				
	③暖房機器の点検清掃		③								③			
	④不使用時の電源オフ		④											
	⑤温度指標計の設置と室内湿度管理		⑤											
⑥ウォームビズの実施	⑥													
パフォーマンス評価			○							○	△	○	△	○
管理者評価	達成・未達成の原因	近年、気温が上がっているため、暖房の使用頻度が少なくなっている。	—						12月は一時的に寒くなり、暖房使用時間が長くなった。	昨年度に比べて寒さは厳しくなかった。全体的に暖房使用量は少なくなった。				
	次期四半期の取組方針・指示事項など	冬の使用量が中心となるため、温度設定等決められたことを守って行動する	—						定期的な点検・清掃を心がけ使用量を削減していく。	残量を定期的に確認し、灯油を切らさないように注意する。				

評価 : 月次・累計とも達成 … ○ 月次又は累計が達成 … △ 月次・累計とも未達成 … × (3ヵ月ごとの評価時に×の場合は是正を追加する)

ガソリン使用量の削減（工事部：荒井）

		単位	2024年度 (2024年4月～2025年3月)												
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
月目標		原単位(L/百万円)	34.4	22.7	9.1	11.3	14.3	11.6	13.1	11.1	19.4	7.2	14.2	4.9	
		累計	34.4	57.1	66.2	77.5	91.8	103.4	116.5	127.5	147.0	154.2	168.4	173.3	
年度目標	基準値 (2022年度)	計画	①----->												
	176.8 L/百万円				②			②			②			②	
	削減率				③	③									
	2%					④----->									
目標値															
173.3 L/百万円															
実績値	使用量(L)	実績	2,243.2	2,127.8	1,872.8	2,098.1	1,910.7	2,168.1	2,033.9	2,402.2	2,690.2	1,791.7	2,097.5	2,294.9	
	178.0 L/百万円		原単位(L/百万円)	13.1	15.4	11.4	10.2	33.5	12.1	16.3	11.9	12.6	12.0	16.4	13.0
			累計(原単位)	13.1	28.5	40.0	50.2	83.7	95.8	112.1	124.0	136.6	148.6	165.0	178.0
	①車両・重機の適正運転 (エコドライブの推進)		実績	①----->											
	②車両の定期点検					②			②			②			②
	③低燃費車の優先使用					③	③								
④効率的なルートを選択						④----->									
パフォーマンス評価			○	○	△	○	△	△	△	△	○	△	△	×	
管理者評価	達成・未達成の原因		現場管理社員2名入社。4月に営業車両ハイブリッド車を3台購入。6月に現場管理社員1名入社。営業車両の増加と、まだ現場を担当できる技量がないため原単位で増えている			9月にさらに現場管理者1名入社。現場管理社員増加に伴い、営業車両が増加してガソリン使用量は増加している。			営業車両は4台増加しているが、原単位では達成できている。			暖気時間等を極力少なくするように努める。原単位では目標が達成できている。			
	次期四半期の取組方針・指示事項など		ハイブリッド車への買い替えを順次行っていく。休憩時、車両内でエアコンをつけてのアイドリングを減らす			営業車両は全てハイブリッド車となっている。休憩時間のエアコンの使用を極力減らす努力をする。			効率的なルートを通行するなど、乗車時間を減らせるよう工夫する。			数値については、年々減少傾向にあり、今後の状況を見守っていく。今年度は、現場管理者が増えて営業車が増加しているため、次年度以降変動に注意する。			

評価：月次・累計とも達成 … ○ 月次又は累計が達成 … △ 月次・累計とも未達成 … × (3ヵ月ごとの評価時に×の場合は是正を追加する)

軽油使用量の削減（工事部：荒井）

		単位	2024年度 (2024年4月～2025年3月)												
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
月目標		原単位(L/百万円)	303.8	138.7	63.4	76.1	78.4	96.2	80.0	82.2	162.2	44.1	110.5	38.2	
		累計	303.8	442.6	506.0	582.1	660.4	756.6	836.6	918.9	1,081.0	1,125.1	1,235.6	1,273.8	
年度目標	基準値(2022年度)	計画	①	----->											
	1,299.8 L/百万円			②		②		②		②			②		
	削減率		④	----->											
	2%			⑤											
目標値															
1,273.8 L/百万円															
活動実績	実績値	使用量(L)	8,445.6	9,680.9	9,424.9	9,644.1	9,474.3	10,594.6	8,572.4	10,597.1	12,024.9	8,188.9	9,593.0	13,477.5	
	833.0 L/百万円	原単位(L/百万円)	49.4	70.2	57.5	47.0	166.2	59.2	68.6	52.5	56.5	55.0	74.9	76.1	
		累計(原単位)	49.4	119.5	177.0	224.1	390.3	449.5	518.0	570.5	627.0	681.9	756.9	833.0	
	①車両・重機の適正運転(エコドライブの推進)	実績	①	----->											
	②車両・重機の定期点検			②		②		②		②			②		
	③排出ガス対策型機械の優先使用と購入														
	④効率的なルートを選択		④	----->											
⑤機械操作の向上				⑤											
パフォーマンス評価			○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	△	
管理者評価	達成・未達成の原因	繰り越し工事が少なかったため、3か月共減っている。6月に入って売上が伸びてきているため今後の状況を注視していきたい			7月に0.1m3パック材を新型購入。排ガスや振動騒音の対策の促進となると考えられる			10月は月次で未達成となったが、それ以外では達成できている。			年間を通して原単位・使用量ともに目標が達成できた。				
	次期四半期の取組方針・指示事項など	効率的な作業を心掛け、使用時間を減らしていただけるように工夫をする。手戻りやり直し工事のないように準備する			効率的な作業を心掛け、使用時間を減らしていただけるように工夫をする。			効率的な作業を心掛け、使用時間を減らしていただけるように工夫をする。			残1台となった古い大型ダンプの入れ替え。				

評価：月次・累計とも達成…○ 月次又は累計が達成…△ 月次・累計とも未達成…×（3ヵ月ごとの評価時に×の場合は是正を追加する）

一般廃棄物排出量の削減（総務部：倉又）

		単位	2024年度（2024年4月～2025年3月）											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月目標		k g	31.0	16.1	19.8	235.6	24.6	20.8	261.7	10.3	51.8	324.8	17.9	25.5
		累計	31.0	47.1	66.9	302.5	327.1	347.9	609.6	619.9	671.7	996.5	1,014.4	1,039.9
年度目標	基準値（2022年度）	計画	①	----->										
	845.2 kg		②	----->										
	削減率		③	----->										
	2%		④	----->										
	目標値		⑤	----->										
実績値		k g	344.1	23.8	27.9	25.7	42.0	364.8	41.3	26.4	25.9	29.7	404.1	36.1
		累計	344.1	367.9	395.8	421.5	463.5	828.3	869.6	896.0	921.8	951.5	1,355.6	1,391.7
活動実績	①ごみの排出量の把握と管理	実績	①	----->										
	②ペーパーレス化		②	----->										
	③古紙のリサイクル		③	----->										
	④ごみの分別の徹底と処分（帳簿書類等）		④	----->										
	⑤ミスの削減（コピー前の確認）		⑤	----->										
					----->									
パフォーマンス評価			×	×	×	△	×	×	△	×	△	○	×	×
管理者評価	達成・未達成の原因		4月に紙資源の回収があった為、大幅に排出量が増加した。また、人員増加に伴い増加したと考えられる。			9月に紙資源の回収があった為、大幅に排出量が増加した。			排出量が減少傾向にある為、今後も排出量削減に努める。			年度目標である数値より増加してしまつた。基準値である2022年度の排出量が例年に比べて少なかったものがあるが、今後も2022年度の数値に近づけるようにゴミ削減を心掛ける。		
	次期四半期の取組方針・指示事項など		紙資源は回収してもらうときにまとめて数量をはかるため、回収の月を決め数値を安定させる。改めてペーパーレス化、ゴミの分別等について周知していく。			紙資源は回収してもらうときにまとめて数量をはかるため、回収の月を決め数値を安定させる。			資料を印刷する前に一度見直しをするなどコピーミスを減らす工夫していく。			増加傾向にある為、一人一人がゴミの削減にういて意識を高めていく。		

評価：月次・累計とも達成…○ 月次又は累計が達成…△ 月次・累計とも未達成…×（3ヵ月ごとの評価時に×の場合は是正を追加する）

産業廃棄物排出量の削減（工事部：荒井）

		単位	2024年度（2024年4月～2025年3月）											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月目標		t/百万円	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		累計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.2
年度目標	基準値（2022年度）	計画	①	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	41.0 t/百万円		②	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	削減率		③	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2%		④	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
目標値		計画	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
40.2 t/百万円			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
実績値		t/百万円	0.5	0.8	0.8	0.3	0.8	0.5	1.2	2.0	2.0	0.9	0.8	2.5
13.2 t/百万円		累計	0.5	1.4	2.1	2.5	3.2	3.8	5.0	7.0	9.0	9.9	10.7	13.2
活動実績	①廃棄物の適正処理	実績	①	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	②産廃排出量の把握		②	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	③分別のルール徹底		③	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	④3R活動		④	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
パフォーマンス評価														
管理者評価	達成・未達成の原因	昨年よりも工事件数が増えたため産業廃棄物の排出量も増加した。												
	次期四半期の取組方針・指示事項など	排出量は工事内容や規模に左右されるが、無駄な材料をださないように分別などを徹底していく。再利用が可能な残資材については再利用する。												

評価：月次・累計とも達成 … ○ 月次又は累計が達成 … △ 月次・累計とも未達成 … ×（3ヵ月ごとの評価時に×の場合は是正を追加する）

水使用量の削減（総務部：倉又）

		単位	2024年度（2024年4月～2025年3月）													
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
月目標		m3	0.0	111.5	0.0	111.5	0.0	111.5	0.0	111.5	0.0	111.5	0.0	111.5		
		累計	0.0	111.5	111.5	223.0	223.0	334.5	334.5	446.1	446.1	557.6	557.6	669.1		
年度目標	基準値（2022年度）	計画	①													
	736.0 m3		②													
	目標値		③													
	669.1 m3		④													
実績値		m3	0.0	136.0	0.0	119.0	0.0	118.0	0.0	137.0	0.0	179.0	0.0	175.0		
		累計	0.0	136.0	136.0	255.0	255.0	373.0	373.0	510.0	510.0	689.0	689.0	864.0		
活動実績	①日常的な節水	実績	①													
	②井戸水のメーターの管理		②													
	③水漏れの点検と管理		③													
	④使用後は確実に栓を締める		④													
パフォーマンス評価				×		×		×		×		×		△		
管理者評価	達成・未達成の原因		—				晴れた日が多く花の水やりの回数が増加した為、使用量も増加した。				—				工事車両の洗車は不可欠なため、新たな節水への取り組みを考察する。	
	次期四半期の取組方針・指示事項など		—				水漏れの点検などを定期的に行っていく。節水を心掛ける。				—				水漏れの点検などを定期的に行っていく。節水を心掛ける。	

評価：月次・累計とも達成…○ 月次又は累計が達成…△ 月次・累計とも未達成…×（3ヵ月ごとの評価時に×の場合は是正を追加する）

ネプラス工法の推進 (工事部 : 竹内)

		単位	2024年度 (2024年4月 ~ 2025年3月)													
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
月目標		累計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
年度目標	基準値 (2022年度)	計画	①												→	
	15,235,000 円		②												→	
	増加率		③													→
	10 %															
	目標値															
	実績値	累計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	4,250,000 円		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
活動実績	①受注先、現場でのネプラス工法の提案	実績	①												→	
	②パンフレット等の活用		②												→	
	③ホームページで積極的に公開		③												→	
	④外部への発信 (出展)															
パフォーマンス評価																
管理者評価	達成・未達成の原因		—					—					—			
	次期四半期の取組方針・指示事項など		—					—					—		ネプラス工法のPRを積極的にし、受注を増やしていく。	

評価 : 月次・累計とも達成 … ○ 月次又は累計が達成 … △ 月次・累計とも未達成 … × (3ヵ月ごとの評価時に×の場合は是正を追加する)

SDGs達成に向けた二酸化炭素排出量の削減 (工事部 : 総務部)

		単位	2024年度 (2024年4月 ~ 2025年3月)												
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
月目標		kg-CO2	40,116.8	40,116.8	40,116.8	40,116.8	40,116.8	40,116.8	40,116.8	40,116.8	40,116.8	40,116.8	40,116.8	40,116.8	
		累計	40,116.8	80,233.6	120,350.4	160,467.1	200,583.9	240,700.7	280,817.5	320,934.3	361,051.1	401,167.8	441,284.6	481,401.4	
年度目標	基準値 (2022年度)	計画	①	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----->	
	501,459.8 kg-CO2		②	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----->	
	削減率		③	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----->
	2%		④	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----->
目標値															
481,401.4 kg-CO2															
活動実績	実績値	kg-CO2	29,020.7	30,861.7	29,965.9	30,492.6	30,411.6	34,890.9	28,687.4	35,486.5	40,391.1	27,963.1	34,442.9	42,875.2	
	395,489.6 kg-CO2	累計	29,020.7	59,882.4	89,848.3	120,340.9	150,752.5	185,643.4	214,330.8	249,817.3	290,208.4	318,171.5	352,614.4	395,489.6	
	①エアコンの温度管理	実績	①	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----->	
	②暖房機 (ファンヒーター、ストーブ) の温度管理		②	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----->	
	③日常的な節水		③	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----->
④車両・重機の適正運転(エコドライブの推進)	④		-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----->	
パフォーマンス評価			○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	
管理者評価	達成・未達成の原因		全てにおいて達成できた。今後も継続してCO2削減に取り組む。			全てにおいて達成できた。今後も継続してCO2削減に取り組む。			全てにおいて達成できた。今後も継続してCO2削減に取り組む。			3月の△評価になってしまった。ガソリン・軽油の使用量が他の月に比べて増加してしまったことが理由の一つと考えられる。今後も継続してCO2削減に取り組む。			
	次期四半期の取組方針・指示事項など		エコドライブを推進し、ガソリンや軽油の使用量を削減することで二酸化炭素排出量も削減する。			日常的な節水・節電や設備の点検・清掃などを意識し取り組んでいく。			効率的な作業を心掛け、使用時間を減らしていけるように工夫をする。			エコドライブを推進し、ガソリンや軽油の使用量を削減することで二酸化炭素排出量も削減する。			

評価 : 月次・累計とも達成 … ○ 月次又は累計が達成 … △ 月次・累計とも未達成 … × (3ヵ月ごとの評価時に×の場合は是正を追加する)

SDGs達成に向けた合理化手法の導入 (工事部 : 総務部)

		単位	2024年度 (2024年4月 ~ 2025年3月)													
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
月目標		m3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		累計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
活動内容	①測量機器の導入	計画													①	
	②経理ソフト導入															
実績値		m3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—		累計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
活動実績	①測量機器の導入	実績														
	②経理ソフト導入															
パフォーマンス評価																
管理者評価	達成・未達成の原因															
	次期四半期の取組方針・指示事項など											労働生産性向上のため積極的に合理化手法を導入していく。				

評価 : 月次・累計とも達成 … ○ 月次又は累計が達成 … △ 月次・累計とも未達成 … × (3ヵ月ごとの評価時に×の場合は是正を追加する)

環境活動実績記録表

種類	内容	責任者	スケジュール												備考	
			2024年									2025年				
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
環境教育	管理職	環境経営目標、 環境活動進捗状況確認・評価			●				●			●			●	環境活動レポート 環境経営目標 環境活動計画書
	全従業員	環境経営方針・環境経営目 標・環境活動計画の周知	環境事務局			●										環境経営方針 環境経営目標 環境活動計画書
		指示・指導・教育訓練の実施	委員長	●		●				●						
環境関連法規等の 遵守評価	関連法規の遵守評価、 改正の確認	環境管理責任者		●												当社に関連する法律、 条令規制集
緊急事態対応訓練	緊急時の対応手順書の適切 性・有効性を確認	環境管理責任者			●											緊急時の対応手順書
会社周辺の清掃活動		環境事務局	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
代表者による全体の 評価と見直し		代表者			●											
環境経営レポート	作成と地域事務局への送付	環境事務局				●	●									

環境関連法規制等取りまとめ表 (遵守評価記録)

毎年定期的な遵守評価の前に制定、改正の確認を行う。普段から規制の動きには注意を払う。

遵守評価日：2025年4月25日

法規制等の名称	規制事項	該当する要求事項 (対応すべき事項)	適用法規 (法律, 規則, 施行令)	点検・測定頻度、 実施時期	届出・報告 ・資格	担当 部署	遵守評価	
							証拠	判定
廃棄物処理法	一般廃棄物の処理							
	区分	生活廃棄物等 (生ごみ、紙くず、繊維くずなど)	法2条2項	日常点検	—	総務部	現物監視	○
	委託基準	一般廃棄物収集業者の許可の確認	令4条	毎年3月	—	総務部	委託契約書 許可証写し	○
	産業廃棄物の処理							
	区分	燃え殻、汚泥、廃プラ、金属くず、ガラスくず、木くず、 コンクリートくず、がれき類、紙くず、繊維くず	法2条4項 令2条	日常点検	—	工務部	現物監視	○
	運搬基準	・運搬車両の車体への表示 ・運搬内容記載の書類の常時携帯の義務	法12条1項 令6条	日常点検	—	工務部	現物監視	○
	保管基準	・掲示板：60cm×60cm以上表示 ・飛散・浸透防止 ・保管の高さ制限 ・衛生管理	法12条2項 則8条	日常点検	—	工務部	現物監視	○
	委託基準	・許可を受けた産業廃棄物処理業者へ委託 ・委託契約は書面 ◇委託処理内容など必要事項記載 ◇収集運搬業又は処理業の許可証添付 ・契約書は5年間保存	令6条の2 則8条の2の8 8条の4 8条の4の2 8条の4の3	毎年3月	—	総務部	委託契約書 許可証写し	○

法規制等の名称	規制事項	該当する要求事項 (対応すべき事項)	適用法規 (法律, 規則, 施行令)	点検・測定頻度、 実施時期	届出・報告 ・資格	担当 部署	遵守評価	
							証拠	判定
廃棄物処理法	・紙マニフェスト (管理票)	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物引渡しと同時に受託した者に、産業廃棄物管理票を交付 <ul style="list-style-type: none"> ◇産業廃棄物の種類ごとに交付 ◇運搬先が二以上である場合は運搬先ごとに交付 ◇種類、数量及び受託者の氏名又は名称が管理票に記載された事項と相違がないことを確認の上交付 	法12条の3 1項 則8条の20	引渡し時に：A票 運搬終了時：B 2票 (10日以内) 送付期限：B 2、D票 (90日)及びE票 (180日)	虚偽記載等の発見は、 30日以内に報告	工務部 総務部	マニフェスト 未回収報告書	○
	(報告)	<ul style="list-style-type: none"> 3月末までの1年間の報告を6月末までに提出 中間処理業者の交付する2次マニフェストも報告 県内で排出したものに限る 	法12条の3 7項 則8条の27	毎年3月	長野市 長野県知事	総務部	交付等状況報告書 実績報告書	○
	(保存)	<ul style="list-style-type: none"> A、B2、D、E票の保管(5年間) 運搬又は処分の受託業者も保存 	法12条の3 6、9項 則8条の26、 8条の30	毎年3月	—	総務部	マニフェスト	○
	・電子マニフェスト	<ul style="list-style-type: none"> 電子を使用し情報処理センターを経由して産業廃棄物の運搬が終了した旨を報告 情報処理センターへの登録、運搬の終了報告は3日とする 報告は不要 	法12条の5 則8条の31の2、3 8条の32、33、34	随時	—	総務部	受渡確認票	○
	不法投棄の禁止	何人もみだりに廃棄物を捨ててはならない	法16条	随時	—	工務部	現物監視	○

法規制等の名称	規制事項	該当する要求事項 (対応すべき事項)	適用法規 (法律, 規則, 施行令)	点検・測定頻度、 実施時期	届出・報告 ・資格	担当 部署	遵守評価	
							証拠	判定
資源有効利用促進法	特定再利用業種							
	区分	建設業 土砂、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊	法2条8項 令2条	—	—	工事部	—	○
	利用促進	・建設発生土：性質を区分し利用 ・コンクリート塊：再生骨材等として利用 ・アスファルト・コンクリート塊：再生骨材等及び再生加熱アスファルト混合物として利用	再資源利用省令4条 再資源利用省令5条 再資源利用省令6条	—	—	工事部	—	○
	指定副産物							
区分	土砂、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、木材	法2条13項 令7条	—	—	工事部	—	○	
利用促進	・建設発生土：利用促進のための情報の提供（量、性質、時期等） ・コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材： 副産物の分別、破碎を行い、再資源化施設に搬出	指定副産物利用省令4条 指定副産物利用省令6条	—	—	工事部	—	○	
建設リサイクル法	対象工事	・解体工事：床面積の合計が80m ² 以上 ・新築又は増築の工事：床面積の合計が500m ² 以上 ・上記以外の工事：請負代金の額が1億円以上 ・建築物以外ものに係る解体又は新築工事等： 請負代金の額が500万以上	法9条3項 令2条	—	—	工事部	—	○
	特定建設資材	コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材 木材、アスファルト・コンクリート	法2条5項 令1条	—	—	工事部	—	○
	建設業者の責務	・建設資材廃棄物の発生抑制 ・再資源化等の費用低減 ・再資源化された資材の使用	法5条	—	—	工事部	—	○
	工事の届出	・工事着手日の7日前までに都道府県知事に届出 ・届出事項を記載した書面を交付し説明	法10条、12条	事前に書面を作成し、 発注者に説明	長野県知事	工事部	届出控	○

法規制等の名称	規制事項	該当する要求事項 (対応すべき事項)	適用法規 (法律, 規則, 施行令)	点検・測定頻度、 実施時期	届出・報告 ・資格	担当 部署	遵守評価																					
							証拠	判定																				
騒音規制法	特定建設作業		法3条	—	—	工事部	—	○																				
	規制地域	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">第1号区域</td> <td>ア 第1種区域及び第2種区域</td> </tr> <tr> <td>イ 第3種区域及び第4種区域のうち 学校等並び病院等のうち患者の収容施設を有するもの 図書館並びに特老の敷地の周囲80mの区域内</td> </tr> <tr> <td>第2号区域</td> <td>第3種区域及び第4種区域のうち上記以外の区域</td> </tr> </tbody> </table>							区分	地域	第1号区域	ア 第1種区域及び第2種区域	イ 第3種区域及び第4種区域のうち 学校等並び病院等のうち患者の収容施設を有するもの 図書館並びに特老の敷地の周囲80mの区域内	第2号区域	第3種区域及び第4種区域のうち上記以外の区域													
	区分	地域																										
	第1号区域	ア 第1種区域及び第2種区域																										
イ 第3種区域及び第4種区域のうち 学校等並び病院等のうち患者の収容施設を有するもの 図書館並びに特老の敷地の周囲80mの区域内																												
第2号区域	第3種区域及び第4種区域のうち上記以外の区域																											
対象作業	<ul style="list-style-type: none"> ・「くい打機」「くい抜機」・「びょう打機」・「さく岩機」 ・空気圧縮機：定格出力15kw以上 ・コンクリートプラント：混練容量0.45m³ ・アスファルトプラント：混練重量200kg以上 ・バックホウ：定格出力80kw以上 ・トラクターショベル：定格出力70kw以上 ・ブルドーザー：定格出力40kw以上 	法2条3項 令2条	—	—	工事部	—	○																					
地域別騒音基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>第1号区域</th> <th>第2号区域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>規制基準</td> <td colspan="2">85デシベル</td> </tr> <tr> <td>作業ができない時間</td> <td>午後7時～午前7時</td> <td>午後10時～午前6時</td> </tr> <tr> <td>1日における作業時間</td> <td>10時間を超えないこと</td> <td>14時間を超えないこと</td> </tr> <tr> <td>同一場所における作業時間</td> <td colspan="2">連続して6日を超えないこと</td> </tr> <tr> <td>作業ができない日</td> <td colspan="2">日曜日・休日における作業</td> </tr> <tr> <td>適用除外</td> <td colspan="2">作業がその作業を開始した日に終わる場合</td> </tr> </tbody> </table>	項目	第1号区域	第2号区域	規制基準	85デシベル		作業ができない時間	午後7時～午前7時	午後10時～午前6時	1日における作業時間	10時間を超えないこと	14時間を超えないこと	同一場所における作業時間	連続して6日を超えないこと		作業ができない日	日曜日・休日における作業		適用除外	作業がその作業を開始した日に終わる場合		法5条	—	—	工事部	—	○
項目	第1号区域	第2号区域																										
規制基準	85デシベル																											
作業ができない時間	午後7時～午前7時	午後10時～午前6時																										
1日における作業時間	10時間を超えないこと	14時間を超えないこと																										
同一場所における作業時間	連続して6日を超えないこと																											
作業ができない日	日曜日・休日における作業																											
適用除外	作業がその作業を開始した日に終わる場合																											
作業の届出	・市町村長へ7日前までに届出		法14条 則10条	施工前	長野市 環境政策課	工事部	届出控	○																				

法規制等の名称	規制事項	該当する要求事項 (対応すべき事項)	適用法規 (法律, 規則, 施行令)	点検・測定頻度、 実施時期	届出・報告 ・資格	担当 部署	遵守評価																					
							証拠	判定																				
振動規制法	特定建設作業 規制地域	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">第1号区域</td> <td>ア 第1種区域</td> </tr> <tr> <td>イ 第2種区域のうち 学校等並び病院等のうち患者の収容施設を有するもの 図書館並びに特老の敷地の周囲80mの区域内</td> </tr> <tr> <td>第2号区域</td> <td>第2種区域のうち上記以外の区域</td> </tr> </tbody> </table>	区分	地域	第1号区域	ア 第1種区域	イ 第2種区域のうち 学校等並び病院等のうち患者の収容施設を有するもの 図書館並びに特老の敷地の周囲80mの区域内	第2号区域	第2種区域のうち上記以外の区域	法3条	—	—	工事部	—	○													
	区分	地域																										
	第1号区域	ア 第1種区域																										
		イ 第2種区域のうち 学校等並び病院等のうち患者の収容施設を有するもの 図書館並びに特老の敷地の周囲80mの区域内																										
第2号区域	第2種区域のうち上記以外の区域																											
対象作業	<ul style="list-style-type: none"> 杭打ち機 舗装版破砕機 鋼球使用の破壊作業 ブレーカー（手持式除く） 	法2条3項 令2条	—	—	工事部	—	○																					
地域別振動基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>第1号区域</th> <th>第2号区域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>規制基準</td> <td colspan="2">75デシベル</td> </tr> <tr> <td>作業ができない時間</td> <td>午後7時～午前7時</td> <td>午後10時～午前6時</td> </tr> <tr> <td>1日における作業時間</td> <td>10時間を超えないこと</td> <td>14時間を超えないこと</td> </tr> <tr> <td>同一場所における作業時間</td> <td colspan="2">連続して6日を超えないこと</td> </tr> <tr> <td>作業ができない日</td> <td colspan="2">日曜日・休日における作業</td> </tr> <tr> <td>適用除外</td> <td colspan="2">作業がその作業を開始した日に終わる場合</td> </tr> </tbody> </table>	項目	第1号区域	第2号区域	規制基準	75デシベル		作業ができない時間	午後7時～午前7時	午後10時～午前6時	1日における作業時間	10時間を超えないこと	14時間を超えないこと	同一場所における作業時間	連続して6日を超えないこと		作業ができない日	日曜日・休日における作業		適用除外	作業がその作業を開始した日に終わる場合		法5条	—	—	工事部	—	○
項目	第1号区域	第2号区域																										
規制基準	75デシベル																											
作業ができない時間	午後7時～午前7時	午後10時～午前6時																										
1日における作業時間	10時間を超えないこと	14時間を超えないこと																										
同一場所における作業時間	連続して6日を超えないこと																											
作業ができない日	日曜日・休日における作業																											
適用除外	作業がその作業を開始した日に終わる場合																											
作業の届出	・市町村長へ7日前までに届出	法14条 則10条	施工前	長野市 環境政策課	工事部	届出控	○																					

法規制等の名称	規制事項	該当する要求事項 (対応すべき事項)	適用法規 (法律, 規則, 施行令)	点検・測定頻度、 実施時期	届出・報告 ・資格	担当 部署	遵守評価			
							証拠	判定		
フロン排出抑制法	特定特定製品	<ul style="list-style-type: none"> ・業務用エアコンディショナー及び冷蔵冷凍機器(冷蔵または冷凍の機能を有する自動販売機を含む) ・業務用として製造、販売された機器である。 ・冷媒としてフロン類が充填されている。 ・第二種特定製品ではない。 	法2条	—	—	総務部	—	○		
	第一種特定製品の 管理者	・フロン使用製品の所有者その他フロン類使用製品の使用などを管理するもの。	法2条	—	—	総務部	—	○		
	第一種特定製品廃棄物等 実施者	・第一種特定製品野廃棄等を行おうとする第一種特定製品の管理者。	法41条	—	—	総務部	—	○		
	冷媒監理の徹底	・適切な場所への設置、機器の点検、漏えい防止措置、点検などの履歴の保管		—	—	総務部	—	○		
		製品区分							定格出力	点検の頻度
	簡易 点検	すべての第一種特定製品								3ヵ月に1回以上
	定期 点検	冷蔵機器及び冷凍機器							7.5 k W以上の機器	1年に1回以上
		エアコンディショナー							50 k W以上の機器	1年に1回以上
	7.5 k W以上の50 k W 未満の機器		3年に1回以上							
点検の記録	・点検の記録は、機器を設置してから廃棄した後3年間保存		—	—	総務部	—	—			
機器の廃棄	第一種フロン類充填回収業者に依頼 引取証明書(原本)は3年間保存		—	—	総務部	—	—			

法規制等の名称	規制事項	該当する要求事項 (対応すべき事項)	適用法規 (法律, 規則, 施行令)	点検・測定頻度、 実施時期	届出・報告 ・資格	担当 部署	遵守評価	
							証拠	判定
オフロード法	公共工事 使用者の責務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定特殊自動車排出ガスの排出の抑制 ・ 点検整備の実施により適正な排出ガス性能の維持 ・ 適正燃料の使用 	法4条2項	—	—	工事部	—	○
	使用制限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準に適合した特定特殊自動車の使用 (但し、施行前に製作された車両は除く) ・ 主な建設機械 油圧ショベル、ブルドーザー、ロードローラー、クローラークレーン 	法2条1項 法17条、18条 令2条 規則16条、22条	購入時及び使用時	発注者及び 元請業者へ 報告		ステッカーの確認	○
排出ガス対策型 建設機械の使用	公共工事	直轄工事での指定建設機械（1次基準適合）の使用の原則化を通じて、排出ガス対策型建設機械を広く普及		—	—	工事部	ステッカーの確認	○
自動車リサイクル法	使用済自動車 所有者の責務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車の長期間使用による使用済自動車の抑制 ・ 再資源化等の促進（再資源化に配慮された自動車の購入等） ・ 使用済自動車は引取業者に引き渡し ・ リサイクル料金を資金管理人に預託 	法2条2項 法5条、8条、73条	購入時及び廃棄時	許可業者	総務部	リサイクル券	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器 種類	ユニット形エアコン、ブラウン管式テレビ 電気冷蔵庫及び冷凍庫 電気洗濯機及び衣類乾燥機	法2条4項 令1条	購入時及び廃棄時	許可業者	総務部	家電リサイクル券	○
	事業者の責務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定家庭用機器の長期間使用と排出抑制 ・ 排出時における適正な引き渡し、料金の支払 	法6条	購入時及び廃棄時	許可業者	総務部	家電リサイクル券	○
消防法	火気の使用	ガスによる道路の乾かし作業等	長野市火災予防条例 第20条	施工時	—	工事部	—	○

保管：環境事務局

遵守評価の欄：確認した記録など記入 判定欄：○×（×の場合は問題点は正／予防処置票により解決を図る）

フロン排出抑制法に基づく第一種特定製品の簡易点検表

令和 6 年度		NO.	設置場所	2階 事務所		
メーカー	ダイキン	設置年月日	平成22年8月3日	経過年数	15 年	
型番	FHP140AL	定格出力	2.8 kW ()			
		フロンの種類	CFC/HCFC/HFC	充填量	9400 kg	

点検実施日		令和6年5月20日	令和6年8月20日	令和6年11月20日	令和7年2月20日	
点検実施者						
点検内容	室外機 (配管含む)	・異常な運転音	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・異常な振動	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・外観の損傷	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・外観の腐食や錆	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・外観の油にじみ	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・熱交換器の霜付き	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
	室内機	・異常な運転音	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・異常な振動	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・冷温風の吹出し量の異常	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・冷温風の温度の異常	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
異常の状況						
異常有の場合の対応 (修理手配) 連絡先：(株)山口電気 TEL:026-243-5219						
対応完了年月日		月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	

※ 点検については3ヵ月に1回行うこと

※ 点検記録簿は、機器を廃棄するまで保存すること。

※ シーズン前点検や日常保守点検などは、これを簡易点検とみなすことができますが、結果の記録や記録の保存を行うようにしてください。

フロン排出抑制法に基づく第一種特定製品の簡易点検表

令和	6	年度	NO.	設置場所	3階 会議室		
メーカー	三菱			設置年月日	平成26年3月31日	経過年数	11 年
型番	PC-RP140KA8			定格出力	2.8 kW ()		
				フロンの種類	HFCR410A	充填量	4.9 kg

点検実施日		令和6年5月20日	令和6年8月20日	令和6年11月20日	令和7年2月20日	
点検実施者						
点検内容	室外機 (配管含む)	・異常な運転音	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・異常な振動	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・外観の損傷	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・外観の腐食や錆	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・外観の油にじみ	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・熱交換器の霜付き	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
	室内機	・異常な運転音	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・異常な振動	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・冷温風の吹出し量の異常	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
		・冷温風の温度の異常	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
異常の状況						
異常有の場合の対応 (修理手配) 連絡先: (株)山口電気 TEL: 026-243-5219						
対応完了年月日		月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	月 日 ()	

- ※ 点検については3ヵ月に1回行うこと
- ※ 点検記録簿は、機器を廃棄するまで保存すること。
- ※ シーズン前点検や日常保守点検などは、これを簡易点検とみなすことができますが、結果の記録や記録の保存を行うようにしてください。

安全衛生委員会

委員長： 土山 貴之

【主な活動】

- ・安全衛生管理（現場での仮設トイレの設置を指示）
- ・毎月1回の安全パトロールを行い、事故や不良工事等にならないよう徹底。全体会議にて報告。
- ・油流出等が発生した時に再発防止委員会を発足
- ・熱中症予防・対策
- ・健康経営優良法人認定制度を取得し、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践。
- ・ヘルスアップチャレンジとして事業所の健康課題を見つけ、取組目標を宣言し、健康経営に取り組んでいる。

朝礼・研修委員会

委員長： 山崎 永二

【主な活動】

- ・安全大会等の計画・実施
- ・エコドライブの推進
- ・CO2削減のため、重機等の操作向上の訓練の実施。
- ・工事関係の資格取得を推進し研修を実施。
- ・活力朝礼の実施
- ・朝礼にラジオ体操の取入れ



環境管理責任

環境整備委員会

委員長： 中島 道広

【主な活動】

- ・エコアクション21の推進活動
- ・環境美化の他、備品（消火器等）の定期点検の実施。
- ・5S等の計画
- ・全従業員に1年間の環境経営目標・環境活動計画の結果報告と周知。
- ・火災発生時に再発防止委員会を発足
- ・花壇づくり
- ・エコキャップ収集
- ・資材置場・社屋周辺の清掃
- ・作業車内の清掃・点検

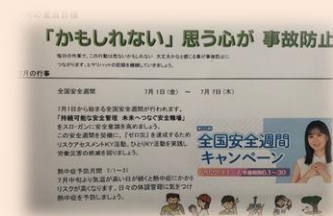


業務改善委員会

委員長： 戸津 弘善

【主な活動】

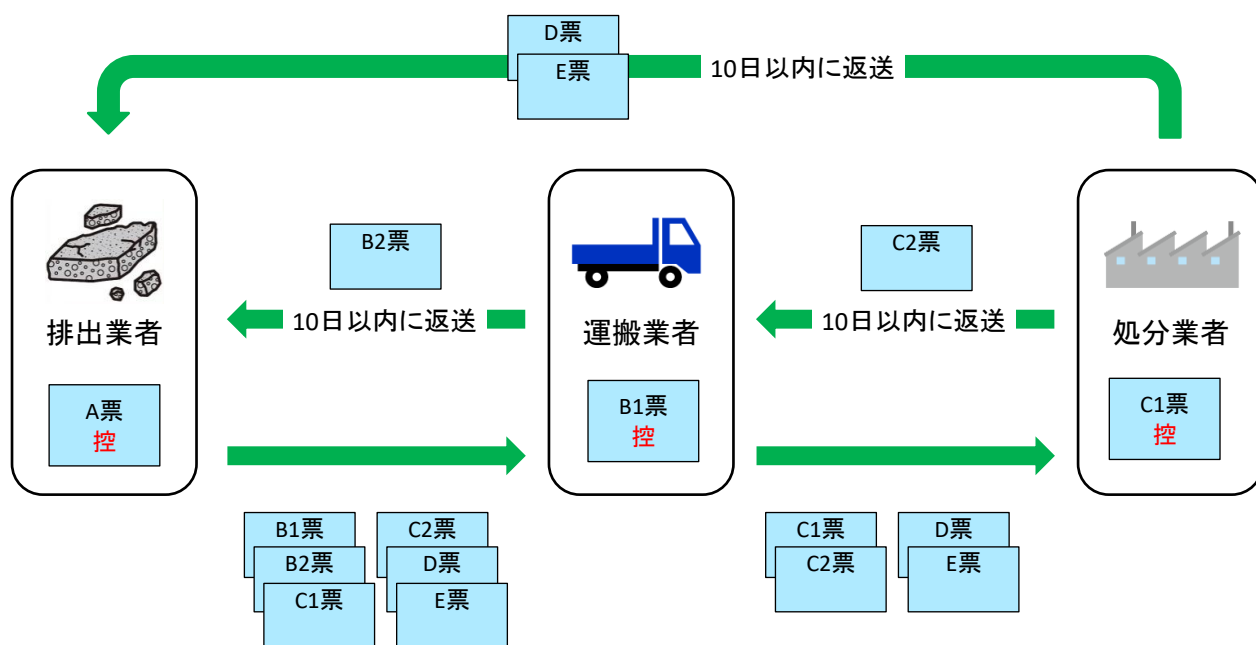
- ・毎月の重点目標を掲示し、全従業員に周知。
- ・第一資材ヤード、事業所の施設の改善。
- ・クレームの報告や改善・検討
- ・「ネプラス工法」を出展し、外部への発信。



産業廃棄物管理手順書	制定日	2010年12月20日
	文書番号	E A-9-01
	保管	環境事務局
	頁	1 / 1

目的 産業廃棄物について適切に保管・管理し、適切に処理することにより公害を防止し、生活環境の保全と、公衆衛生の向上を目指す。

産業廃棄物の許可を得ている業者を使用する。



票	主旨	知事への報告期限
A 票	控え	
B2票	運搬完了	交付から90日（特管は60日）
D 票	処分完了	交付から90日（特管は60日）
E 票	最終処分完了	交付の日から180日

上記期限内に各票が返送されない場合は、期限から30日以内に都道府県知事にその旨を報告する。

各伝票の照合欄の受理日を確認し、総務で**5年間保管**する。

*注記

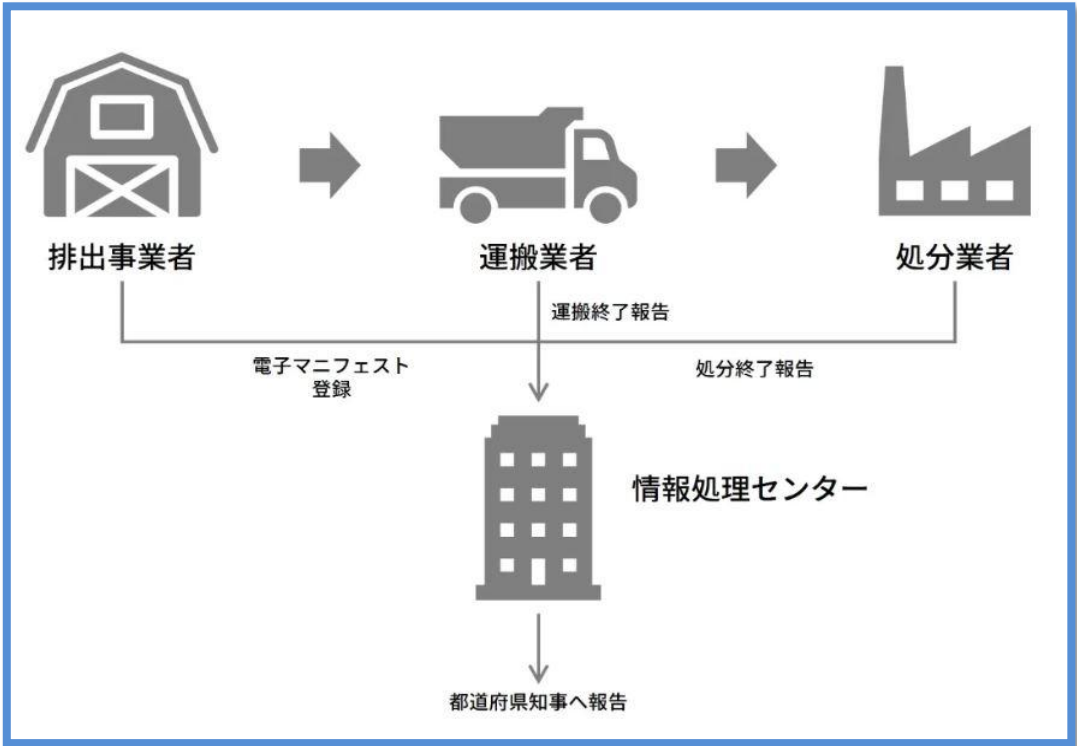
マニフェスト交付状況報告書を**毎年6月30日まで**に長野市に提出する。

<改訂記録>

版	改訂日	改訂内容・改訂理由
1	2014年1月20日	分かりやすく表記した。

産業廃棄物管理手順書 (電子マニフェストの場合)	制定日	2024年7月11日
	文書番号	E A-9-01
	保管	環境事務局
	頁	1 / 1

目的 電子マニフェストを利用することにより、マニフェストの保存や報告の手間を省き、事務作業の労力や時間を削減しながら産業廃棄物の適切な処理をする。紙資源の削減につながる。



- 排出事業者：引き渡し日から3日以内にJWNETへ情報登録
- 収集運搬業者：運搬終了日から3日以内にJWNETへ運搬終了報告
- 処分業者：処分終了日から3日以内にJWNETへ処分終了報告

<改訂記録>

版	改訂日	改訂内容・改訂理由

省エネルギー実施手順書	制定日	2010年12月20日
	文書番号	E A-9-02
	保管	環境事務局
	頁	1 / 2
目的	省エネルギー活動を通じて消費するエネルギー量を削減し、少しでも地球温暖化防止の要因となる二酸化炭素排出の削減につなげる。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・総務担当者が使用量記録を管理・点検をする。 ・使用量を管理表にまとめ、3ヶ月毎に環境管理責任者に報告する。 	
		エアコンで節電 冷房時 26℃ こまめに温度調節をする 使用前はフィルターの掃除をする。
		断熱性を向上 2重窓の導入。 ブラインドで窓からの熱の出入りを防ぐ。
		購入電力の見直し バイオマス発電による電力を購入
		照明で節電 昼休み時 消灯 (12:00~13:00) 使用しない場所は消灯し、点灯時間を短くする。 照明器具の掃除で明るさをアップする。
		時間外の節電 時間外の勤務時における電気は、必要最小限の範囲のみ使用する。(パソコン、照明等) 水曜日をノー残業デーとする。
		省エネ機器で節電 省エネタイプの電化製品を導入。 消費電力が小さいことや省電力モードに移行する機能がある物を選ぶ。
		省エネ行動で節電 OA機器は待機時省電力モードに設定する。 昼もこまめに電気を消し節電する。
		節水の徹底 日常的に節水をする。 水漏れ時は速やかに修繕補修。 使用後は確実に栓を締める。
		暖房機の節約 暖房時 22℃ こまめに温度調節をする。 使用しない時は電源OFFにする。

省エネルギー実施手順書	制定日	2010年12月20日	承認	作成
	文書番号	E A-9-02		
	保管	環境事務局		
	頁	2/2	環境管理責任者	環境事務局

☆運転で燃費と二酸化炭素の削減



エコドライブ

- ・燃料の低減と騒音、悪臭の防止に努め、省エネ運転を心がける。
- アイドリングストップ
 - ・待ち合わせや荷物の積み下ろし時は一旦エンジンを停止する。
(ただし、エンジン停止すると作業ができない場合は対象外とする。)
 - ・休み時間等で車内で休息や仮眠を行うときもエンジンは停止する。
(ただし、真夏の気温が高い時は、熱中症予防のため対象外とする。)

重機の選定

- ・工事に見合った重機を選定し、不要な積載をしない。
- ・重機買い替えによる燃費の削減。

☆ごみの分別で省エネ・リサイクル



コピー用紙の削減

- ・支障がない限り、両面印刷・集約印刷機能を使う。
- ・裏紙（ミスした用紙等の裏面の再利用）は分別ボックスに入れ、社内文のコピーに使用する。（ただし、カラーの裏紙は対象外で、メモ用紙に活用する。）
- ・文書の電子化（スキャナー機能）で用紙の削減。
- ・PCFAX機能を使い、紙を出さずFAXを送る。

☆ごみの削減



ごみの分別

- ・紙類（機密文書以外）は資源回収箱に入れリサイクル活動。
- ・郵送以外（グループ会社便等）は使用済みの封筒を利用する。
- ・紙類以外のごみは、ルールに従い分別。
- ・ごみの発生量を把握し削減に努める。

☆ 宴会での食べ残し削減



- ・乾杯後30分間は席を立たずに料理を楽しみ、終了10分前になったら自分の席に戻って再度料理を楽しむ。
- ・幹事は宴会開始時に30・10運動について説明する。

☆ タブレット端末の使用



- ・必要なデータをクラウド（BOX）に保管。会社外からでも必要なデータを見たり、書き込んだりすることが出来るようにした。
- ・技術職社員に各1台タブレット端末を支給。
- ・都度会社に帰って来なくても、フリーWi-Fiや携帯電話とデザリングして使用する。

<改訂記録>

版	改訂日	改訂内容・改訂理由
1	2012年7月10日	節水管理手順書を廃止し、省エネ手順書に灯油、水道、ごみの削減を追記
2	2019年6月14日	3010運動・タブレット端末支給を追記
3	2020年7月10日	購入電力の見直しを追記
4	2023年7月4日	暖房設定温度を22℃に変更

油流出対応手順書	制定日	2011年1月7日
	文書番号	EA-10-01
	保管	環境事務局
	頁	1 / 1

目的 油が流出しないように予防を行う。油流出の場合、緊急対応を適切に行うことにより従業員と近隣住民の安全及び環境汚染を防止する。

***手順**

発見者はあわてずに流出防止をする。

職長に連絡し、近くにいる作業員と共に流出防止する。



※少量の場合

ウエス、タオルなどに吸収させ回収する。

※大量の場合

エマージェンシーキットで流出を止めた後、ウエス、タオル、吸着マット吸収させ回収する。



***ポイント**

機械類の点検、作業時に周囲建物等の把握



工事現場に砂があれば、防波堤をつくり流出を止める。



職長は緊急連絡網で場所・状況を連絡し指示に従う。



ビニール袋に入れて産業廃棄物として処理する。



***訓練・試行及び評価・見直し**

①毎年1回訓練を兼ねた油流出防止テストを実施し、手順の有効性や訓練の妥当性を確認する。

②油流出時は原因を突き止め、再発防止のための手順を見直し、改定する。

③手順書を改訂した場合は必要に応じて再訓練を行う。

年1回：毎年1回行い、記録に残す。
訓練時に手ぬぐい、タオルの枚数を確認する。

訓練：手順どおりにできるようにする

試行：手順が適切であるか

機能が正常であるか

決められた手順通りに行動できるか

<改訂記録>

版	改訂日	改訂内容・改訂理由
1	2011年4月20日	砂による流出防止方法の追加、流出を止めた油の処理方法の追加
2	2012年7月10日	緊急事態対応フローを追記

火災対応手順書	制定日	2012年6月1日
	文書番号	EA-10-02
	保管	環境事務局
	頁	1/1

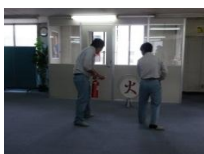
目的 火災が発生しないように予防を行う。火災発生の場合、緊急対応を適切に行うことにより従業員と近隣住民の安全及び火災による環境汚染を防止する。

***手順**

火災が発生したら



火が出たら、あわてず、すばやく消火する。



避難は歩いて持ち物は少なく



緊急時 119番

- ①119番に電話
- ②火事か救急かを伝える
- ③場所(住所・目印)を伝える
- ④火事の状況を伝える
- ⑤自分の名前と電話番号を伝える



避難場所(第2資材ヤード)での点呼



***訓練・試行及び評価・見直し**

- ①毎年1回、試行・訓練を実施し、手順の有効性や訓練の妥当性を確認する。
- ②火災発生時は原因を突き止め、再発防止のために手順書を見直し、改定する。
- ③手順書を改訂した場合は必要に応じて再訓練を行う。

***ポイント**

消火器の点検



消火器の使い方



近くにガス器具がある場合は元栓を止める。



非常口を妨害するものが置いていないか確認



年1回：毎年1回行い、記録に残す。

訓練：手順どおりにできるようにする

試行：手順が適切であるか

機能が正常であるか

決められた手順通りに行動できるか

<改訂記録>

版	改訂日	改訂内容・改訂理由
1	2012年7月10日	避難場所と人員の点呼の追記と緊急連絡系統図を追記
2	2013年8月20日	緊急事態発生対応フローを追記

熱中症対応手順書	制定日	2018年6月30日
	文書番号	EA-10-03
	保管	環境事務局
	頁	1/1

目的 熱中症にならないよう予防を行う。万が一熱中症にかかった恐れのある時は早急に対応し、社員の健康を第一優先にする。

熱中症の予防



熱中症を疑う症状が現れたら・・・

***手順**

熱中症の症状とは

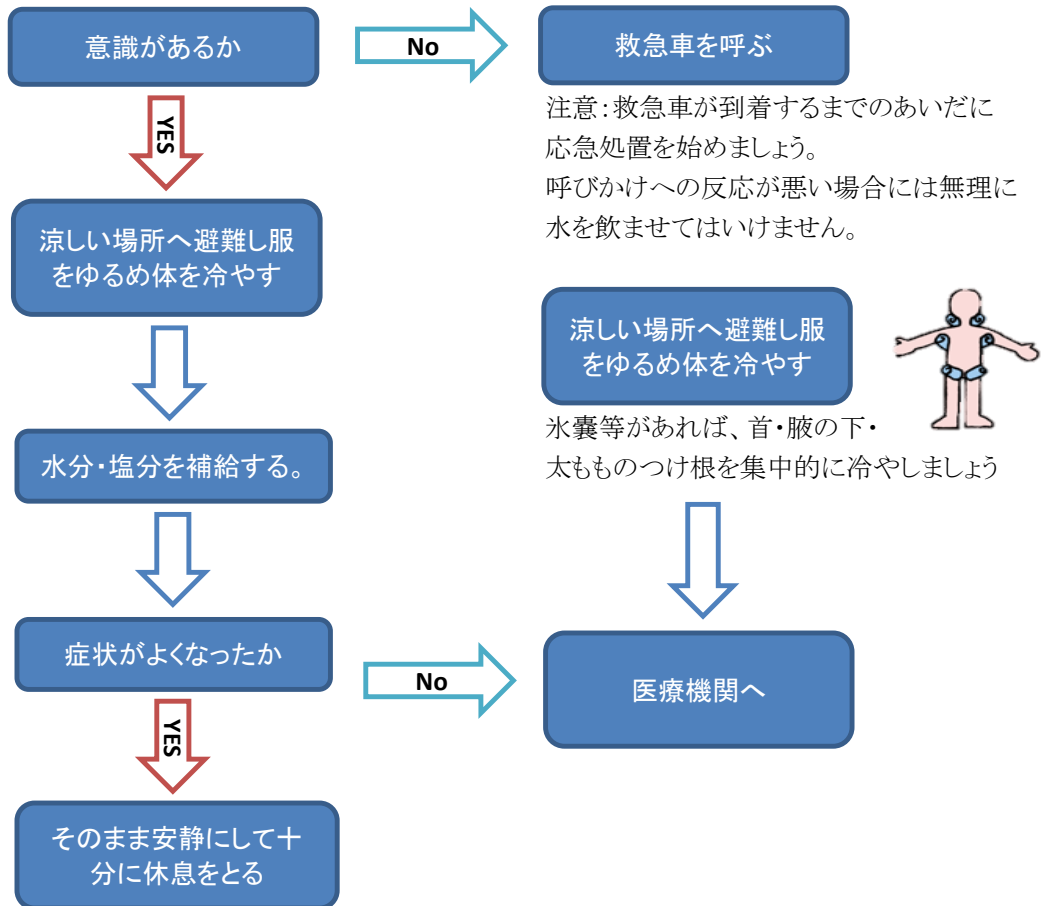
めまい・失神・筋肉痛・筋肉の硬直・大量の発汗・頭痛・不快感・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感・意識障害・けいれん・手足の運動障害・高体温等

まず熱中症にならないように予防を心がける

- ❖ 涼しい服装
- ❖ 日陰を利用
- ❖ 日傘・帽子等の使用
- ❖ 水分・塩分補給
- ❖ 空調服の着用
- ❖ 各車両に熱中症対策キット設置



熱中症の応急処置



***訓練・試行及び評価・見直し**

- ① 毎年夏の安全大会時に手順を確認する
- ② 保冷剤・パンチクーラー等の在庫を確認しておく。ヘルメットの日よけをつけることを徹底


年1回：毎年5～7月に行い、記録に残す。
 訓練：手順どおりにできるようにする
 試行：手順が適切であるか
 決められた手順通りに行動できるか

<改訂記録>

版	改訂日	改訂内容・改訂理由
1	2022年7月14日	熱中症対策キットの設置を追記


緊急事態発生・訓練及び試行記録

作成日:

区分	緊急事態発生: <input type="checkbox"/> 緊急時訓練及び試行: <input checked="" type="checkbox"/>					
日時	2024年4月19日 午後2時00分 ~ 午後3時00分					
担当部署	安全衛生委員会			責任者	土山 貴之	
参加者氏名	全従業員					
場所	本社 資材置き場					
内容	消火器の使い方の説明と火元への消火器の向け方等を一人ずつ確認した。					
結果	実際に消火器を持ってみたことで、消火の仕方等の難しさに気づいた。 訓練を重ねることで冷静に対処する心理的準備ができた。			<p style="text-align: center;">記録写真・図等</p> 		
問題点 課題	火を扱う際は燃え移りやすいものは近くに置かない。					
再発防止策	現場での緊急事態を想定して訓練する。 消防への連絡を最優先に行う。 消火が危険と判断したら無理に消火せず消防の到着を待つ。					
確認事項	今回あがった問題点を次回の訓練に活かす。					
使用手順書	EA-10-02			変更の有無	有	(無)
記事						

緊急事態発生・訓練及び試行記録

作成日:

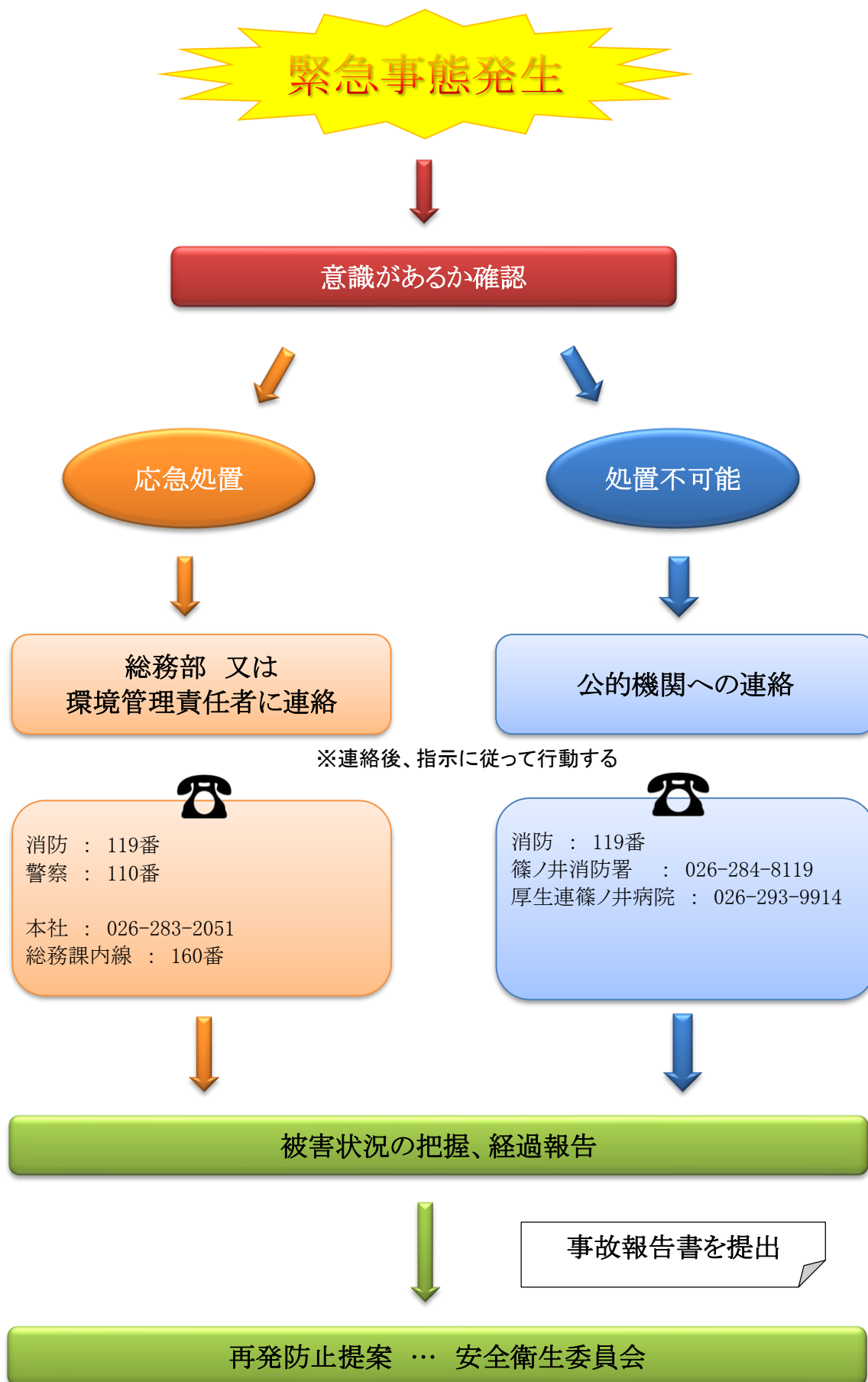
区分	緊急事態発生: <input type="checkbox"/> 緊急時訓練及び試行: <input checked="" type="checkbox"/>					
日時	2024年4月19日 午後3時00分 ~ 午後4時00分					
担当部署	安全衛生委員会			責任者	土山 貴之	
参加者氏名	全従業員					
場所	本社 資材置き場					
内容	軽油の入ったポリタンクを倒してしまったと想定し、オイルの除去方法等を確認した。					
結果	オイル除去に使用する資材も性能が良くなっているため、今後も定期的を実施することが必要であると感じた。			<p style="text-align: center;">記録写真・図等</p> 		
問題点 課題	各重機にはオイルマットが常備されている為、場所の確認、在庫確認を行う。					
再発防止策	訓練で使用資材、オイル漏れが起きた際の手順の共有。					
確認事項	漏出の規模によつての関係機関への通報有無を確認。 (長野市環境保全温暖化対策課)					
使用手順書	EA-10-04			変更の有無	有	無
記事						

緊急事態発生・訓練及び試行記録

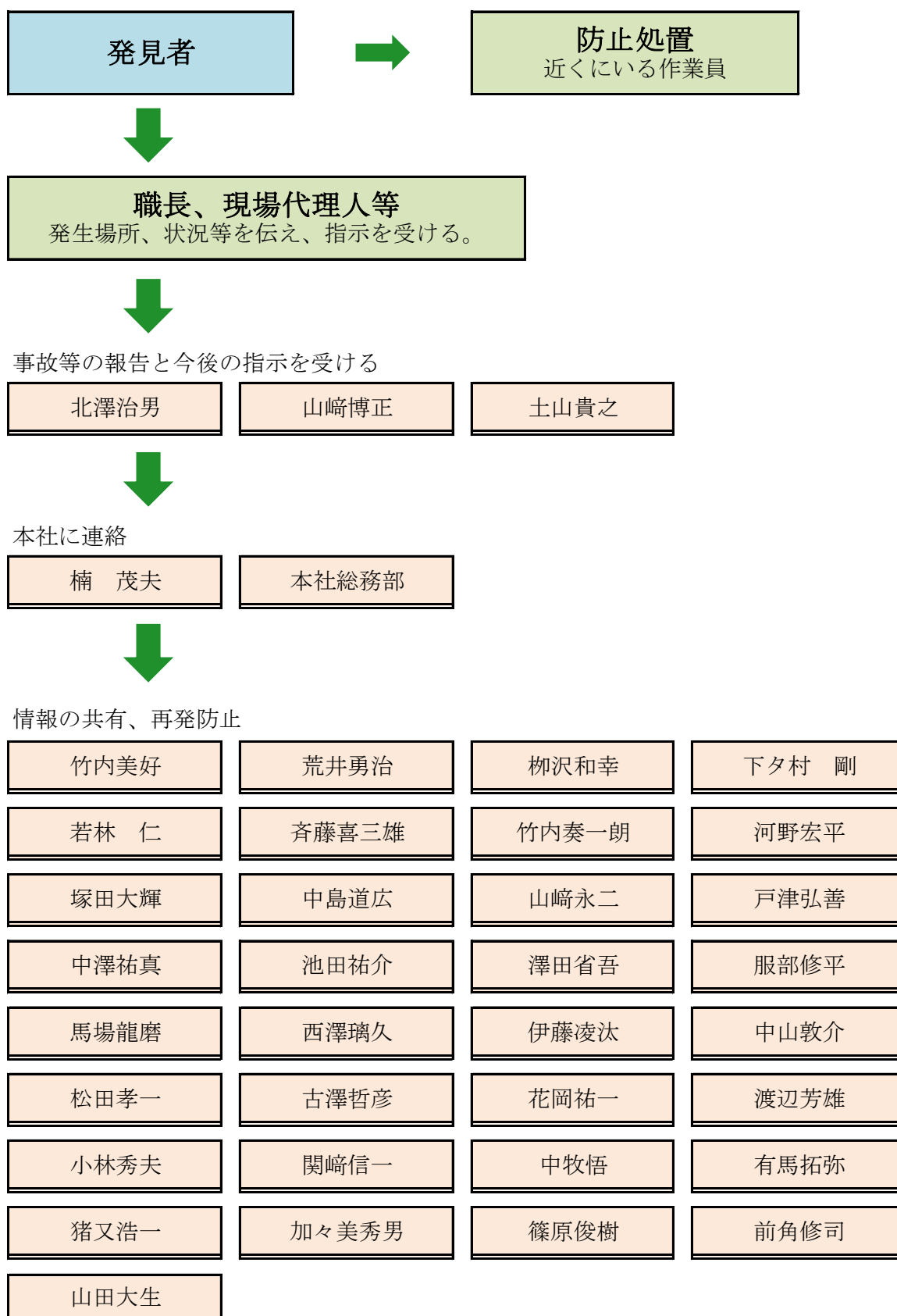
作成日:

区分	緊急事態発生: <input type="checkbox"/> 緊急時訓練及び試行: <input checked="" type="checkbox"/>					
日時	2024年6月20日 午後13時15分 ~ 14時00分					
担当部署	安全衛生委員会			責任者	戸津弘善	
参加者氏名	全従業員					
場所	長野市商工会館2F					
内容	熱中症対策についてビデオ鑑賞					
結果	熱中症対策についてビデオ鑑賞を行った。 のどが渇く前に水分をとる、体調が悪くなる前に休憩をすることが必要。			<p style="text-align: center;">記録写真・図等</p> <p style="text-align: right;">熱中症対策 ビデオ鑑賞</p> <p>■職長さんは、毎朝、職人さんの体調確認 そして作業中も、職人さんの体調確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>お互いに声かけて体調確認 食欲の有無が体調のバロメーター 「食欲どうですか？」 「朝ごはん、お昼ごはん 美味しく(おいしく) モリモリ食べられましたか？」</p> </div>  <p>■熱中症で死亡した人は きつとがまんしていた・・・言い出さなかった</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>がまん しないで</p> <p>たちくらみ</p> <p>だるい</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>下痢</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>食欲無し</p> </div> <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; color: white;"> <p>症状が軽いうちに 申し出て 内科医院に電話・相談</p> </div> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">体調不良者は現場内や車内、休憩所等で休憩しないこと 症状が軽いうちに申し出て内科医院に電話して相談</p> 		
問題点 課題	作業の集中しすぎに注意。					
再発防止策	症状が軽いうちに報告。 周りの人が具合悪そうにしていたら 声をかける。 「これくらい平気だ」と思わず異変を 感じたら報告をする。					
確認事項	冷たい飲料水(ジャグ)、熱中症対策飴 冷却用具を常備しておく。 体調がおかしいと思ったら、すぐに 報告し、内科病院に受診する。					
使用手順書	EA-10-04		変更の有無			
記事						

緊急事態発生時の対応フロー



緊急時連絡先（現場対応）



1-1. 事業の規模

○ エネルギー使用量等の環境負荷の総量のデータを原単位で把握するために用います。

指標	単位	対 象 期 間				
		(2024年 4月～ 2025年 3月)	(2023年 4月～ 2024年 3月)	(2022年 4月～ 2023年 3月)	(2021年 4月～ 2022年 3月)	(2020年 4月～ 2021年 3月)
工事等の件数	件	729	584	723	721	893
従業員数	人	45	40	36	44	44
売上高	万円	190,800	244,500	197,500	21,630,000	20,507,000
事務所床面積	m2	1,526	1,526	1,526	1,526	1,526
倉庫床面積	m2					
資機材置場床面積	m2	19,812	19,812	19,812	19,812	19,812
工場・作業所等床面積	m2					
()						
()						
()						

1-2. 建設現場等の概要及び件数

- 規模が比較的大きな建設現場（元請工事金額5,000万円以上が一つの目安）は、工事毎に記入してください。
- 上記の規模以下の建設現場は、同種の工事等をまとめて名称及び件数と合計金額を記入してください。
- 内容の欄には、主な工程や作業内容（例：土工、コンクリート工、水路工、舗装工、戸建住宅新築工事、工場増築工事、協同住宅設計、橋梁上部設計、測量調査）等を記入してください。
- 環境配慮事項の欄には、工事の内容から必要とされる建設現場等周辺への環境配慮事項を記入してください。
また、規模が比較的大きな建設現場（元請工事金額5,000万円以上が一つの目安）は、できる限り二酸化炭素の排出予想量を記入してください。
- 使用建機等の欄には、工事現場で使用する主な建設機械（建機）や設備機器等を記入してください。
- 発注元の欄には発注元が、公共機関であるか民間であるかの別を記入してください。下請工事の場合は、元請の発注元を記入してください。

<元請工事・業務等>

工事・業務等の名称	規模（金額）	工事業務等の内容	対象期間	環境配慮事項 （CO2排出予想量）	使用建機等	発注元
須坂市墨坂南一丁目分譲造成工事【11区画】 他33件	34 件	土木一式工事		使用機械の騒音、振動、排ガス、 運搬による粉じん等	アスファルトフィニッシャー、コンバインド ローラー、タイヤローラー、バックホウ	民間
	532.1 百万円					
神頭俊夫様外構工事 他54件	55 件	とび・土工、コンクリート工事		使用機械の騒音、振動、排ガス、 運搬による粉じん等	アスファルトフィニッシャー、コンバインド ローラー、タイヤローラー、バックホウ	民間
	617.9 百万円					
令和5年度 県単道路橋梁維持（舗装修繕）	1 件	舗装工事		使用機械の騒音、振動、排ガス、 運搬による粉じん等	アスファルトフィニッシャー、コンバインド ローラー、タイヤローラー、バックホウ	公共
	0.5 百万円					
岡谷酸素長野南営業所様舗装修繕工事 他12件	13 件	舗装工事		使用機械の騒音、振動、排ガス、 運搬による粉じん等	アスファルトフィニッシャー、コンバインド ローラー、タイヤローラー、バックホウ	民間
	5.3 百万円					
岡谷市土地転売造成工事	1 件	解体工事	令和5年9月1日～令和5年9月12日	使用機械の騒音、振動、排ガス、 運搬による粉じん等	バックホウ、大型クレーン	民間
	1.8 百万円					

<下請工事・業務等>

工事・業務等の名称	規模（金額）	工事業務等の内容	対象期間	環境配慮事項 （CO2排出予想量）	使用建機等	発注元
村井町南住宅造成	1 件	土木一式	令和5年4月10日～令和6年7月31日	使用機械の騒音、振動、排ガス、 運搬による粉じん等	アスファルトフィニッシャー、コンバインド ローラー、タイヤローラー、バックホウ	㈱守谷商会
	104.8 百万円					
令和4年度 2022年度防災安全交付金事業 新アクセス 道路 他519件	520 件	とび・土工、コンクリート工事		使用機械の騒音、振動、排ガス、 運搬による粉じん等	アスファルトフィニッシャー、コンバインド ローラー、タイヤローラー、バックホウ	高沢産業㈱ 他
	582.4 百万円					
東電平発電所 市道舗装修繕工事 他103件	104 件	舗装工事		使用機械の騒音、振動、排ガス、 運搬による粉じん等	アスファルトフィニッシャー、コンバインド ローラー、タイヤローラー、バックホウ	㈱新津組 他
	63.2 百万円					

建設現場等の購入電力

設備名:

排出係数: kg-CO2/kWh 平均単価: 円/kWh

項目	単位	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	2024年8月	2024年9月	2024年10月	2024年11月	2024年12月	2025年1月	2025年2月	2025年3月	合計	月平均
使用量	kWh														
料金	円														
CO2排出量	kg-CO2														

④電力4

設備名:

項目	単位	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	2024年8月	2024年9月	2024年10月	2024年11月	2024年12月	2025年1月	2025年2月	2025年3月	合計	月平均
使用量	kWh	3,050.00	4,051.00	4,069.00	2,941.00	4,178.00	245.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	18,534.00	1,544.50

⑤電力5

設備名:

項目	単位	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	2024年8月	2024年9月	2024年10月	2024年11月	2024年12月	2025年1月	2025年2月	2025年3月	合計	月平均
使用量	kWh														

(2) 化石燃料

○ ①~⑩に該当しない項目で大量に使用しているエネルギーがある場合には、⑫以降の表に入力してください。

○ 排出係数は「地球温暖化対策の推進に関する法律」の単位発熱量と炭素排出係数を用い、算出しています（「単位発熱量」×「炭素排出係数」×44/12）。【参考】二酸化炭素の分子量は44、炭素の原子量は12。

①ガソリン

排出係数: kg-CO2/L

項目	単位	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	2024年8月	2024年9月	2024年10月	2024年11月	2024年12月	2025年1月	2025年2月	2025年3月	合計	月平均
使用量	L														
料金	円														
CO2排出量	kg-CO2														

②建設現場等のガソリン

排出係数: kg-CO2/L

項目	単位	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	2024年8月	2024年9月	2024年10月	2024年11月	2024年12月	2025年1月	2025年2月	2025年3月	合計	月平均
使用量	L	2,243.17	2,127.75	1,872.80	2,098.10	1,910.66	2,168.06	2,033.94	2,402.22	2,690.23	1,791.69	2,097.54	2,294.93	25,731.09	2,144.26
料金	円	380,951	360,737	360,737	360,737	360,737	360,737	360,737	360,737	360,737	360,737	360,737	360,737	4,349,058	362,422
CO2排出量	kg-CO2	5,204.15	4,936.38	4,344.90	4,867.59	4,432.73	5,029.90	4,718.74	5,573.15	6,241.33	4,156.72	4,866.29	5,324.24	59,696.13	4,974.68

(2) 産業廃棄物（特別管理）

内訳	項目	単位	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	2024年8月	2024年9月	2024年10月	2024年11月	2024年12月	2025年1月	2025年2月	2025年3月	合計
廃油	排出量	kg													
	中間処理量	kg													
	うち再資源化量	kg													
	最終処分（埋立）量	kg													
	再資源化率	%													
処理費用	円														
廃PCB等	排出量	kg													
	中間処理量	kg													
	うち再資源化量	kg													
	最終処分（埋立）量	kg													
	再資源化率	%													
処理費用	円														
廃石綿等	排出量	kg													
	中間処理量	kg													
	うち再資源化量	kg													
	最終処分（埋立）量	kg													
	再資源化率	%													
処理費用	円														
合計	総排出量	kg													
	中間処理量	kg													
	うち再資源化量	kg													
	最終処分（埋立）量	kg													
	再資源化率	%													
処理費用	円														

(3) 建設発生土

	項目	単位	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	2024年8月	2024年9月	2024年10月	2024年11月	2024年12月	2025年1月	2025年2月	2025年3月	合計
建設発生土（注）	発生量	kg													
	再使用量	kg													
	ストック量	kg													
	埋立等処理量	kg													
	有効利用率	%													

（注）建設副産物の一つで、建設工事から搬出される土砂であり、廃棄物処理法に規定する廃棄物には該当しません。建設発生土には(1)土砂及び専ら土地造成の目的となる土砂に準ずるもの、(2)港湾、河川等の浚渫に伴って生ずる土砂（浚渫土）、その他これに類するものがあります。
建設発生土における有効利用率については、次の式から算出してください。有効利用率 = (再使用量 + ストック量) / 発生量

6. 受託、または受領した廃棄物、再生資源等の処理量等

(1) 産業廃棄物

○ 収集運搬量、処理量等をご記入ください。

(i) 収集運搬

廃棄物の種類	単位	収集運搬量
がれき類	t	619.96
木くず	t	8.83
廃プラスチック	t	1.94
合計	t	630.73

(ii) 中間処理

	廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量
中間処理			t	
			t	
			t	
			t	
再資源化等			t	
			t	
			t	
			t	
	小計		t	
合計			t	

(iii) 最終処分

廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量
		t	
		t	
		t	
合計		t	

(iv) 中間処理後の産業廃棄物（最終処分・中間処理・再資源化等）

産業廃棄物の 中間処理後の （再資源化等）	廃棄物の種類		処理方法等	単位	処分量等	
	最終処分				t	
					t	
					t	
					t	
		小計			t	
	中間処理 （再資源化等）	廃棄物の種類		処理方法等	単位	処理量等
					t	
					t	
					t	
小計			t			
合計				t		

(2) 一般廃棄物

○ 収集運搬量、処理量等を単位（「t」「kg」または「m3」）を付けてご記入ください。

(i) 収集運搬

廃棄物の種類		単位	収集運搬量
事業系	可燃ごみ		
	不燃ごみ		
	資源ごみ（ ）		
	資源ごみ（ ）		
	その他：		
	その他：		
	合計		
家庭系	可燃ごみ		
	不燃ごみ		
	資源ごみ（ ）		
	資源ごみ（ ）		
	その他：		
	その他：		
	合計		
し尿・汚泥			

(ii) 中間処理

		廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量・処分量
中間処理		可燃ごみ			
		不燃ごみ			
		資源ごみ ()			
		資源ごみ ()			
		その他:			
		その他:			
再資源化等					
		小計			
		合計			
中間処理後の最終処分					
		合計			

(iii) 最終処分

廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量
不燃ごみ			
焼却灰			
その他:			
その他:			
合計			

(3) 再生資源の回収・収集等

○ 回収・収集等運搬量を単位（「t」「kg」「台」「個」など）を付けてご記入ください。

再生資源の種類	単位	回収・収集等運搬量
金属		
古紙		
廃棄製品		
その他：		
その他：		

(4) 再生資源の再資源化等

○ 再生資源の種類毎に処理又は加工方法等をご記入ください。

○ 再資源化量及び最終処分量を単位（「t」「kg」「台」「個」など）を付けてご記入ください。

再生資源の種類	処理又は加工等方法	単位	再資源化量	最終処分量
金属				
古紙				
廃棄製品				
その他：				
その他：				

7. 水使用量及び総排水量

(1) 水使用量

- 製品の生産において原材料等として投入される水は、「8. 資源等使用量」で把握してください。
- サイト内で循環的に利用している水は、使用量に含めないでください。

種類	内訳	単位	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	2024年8月	2024年9月	2024年10月	2024年11月	2024年12月	2025年1月	2025年2月	2025年3月	合計
上水	使用量	m3		136.00		119.00		118.00		137.00		179.00		175.00	864.00
	料金	円		32,815		27,292		27,273		32,698		43,733		40,921	204,732
工業用水	使用量	m3													
	料金	円													
地下水	使用量	m3	14.30	8.90	15.00	13.60	14.30	19.30	21.40	30.90	15.70	12.60	12.20	16.80	195.00
	料金	円													
	使用量	m3													
	料金	円													
	使用量	m3													
	料金	円													
合計	使用量	m3	14.30	144.90	15.00	132.60	14.30	137.30	21.40	167.90	15.70	191.60	12.20	191.80	1,059.00
	料金	円		32,815		27,292		27,273		32,698		43,733		40,921	204,732

(2) 総排水量

種類	内訳	単位	2024年4月	2024年5月	2024年6月	2024年7月	2024年8月	2024年9月	2024年10月	2024年11月	2024年12月	2025年1月	2025年2月	2025年3月	合計	
公共用水域	河川	排水量	m3	14.30	8.90	15.00	13.60	14.30	19.30	21.40	30.90	15.70	12.60	12.20	16.80	195.00
	湖沼	排水量	m3													
	海域	排水量	m3													
		排水量	m3													
		排水量	m3													
下水道	排水量	m3		136.00		119.00		118.00		137.00		179.00		175.00	864.00	
	料金	円		32,815		27,292		27,273		32,698		43,733		40,921	204,732	

注：公共用水域への排水にあたり、排出量料金等が必要な場合は、これを把握することが望まれます。

合計	総排水量	m3	14.30	144.90	15.00	132.60	14.30	137.30	21.40	167.90	15.70	191.60	12.20	191.80	1,059.00
	料金	円		32,815		27,292		27,273		32,698		43,733		40,921	204,732

8. 資源等使用量（使用する主な建設資材）

- 資源等使用量は、右の四角囲いの例を参考に、主要な物質を把握してください。
- 資源等使用量を把握するのが困難な場合には、総製品生産量または総商品販売量に廃棄物排出量を足し合わせて算出することもできます。

対象期間（ 2024 年 4 月 ～ 2025 年 3 月）			
資源の種類	単位	使用量	備考（保管量等）
生コンクリート	m3	1,280.10	
アスファルト混合物	m3	1,832.50	
砕石	m3	3,179.85	
乳剤	ℓ	25,708.00	
再生アスファルト混合物	t	7,136.40	
再生砕石	m3	29,840.45	

- 例：資材（資源）の種類
（循環資源も同様）
- ・生コンクリート
 - ・アスファルト・コンクリート
 - ・砕石
 - ・砂
 - ・土砂
 - ・木材
 - ・鋼材（鋼材二次製品含む）
 - ・乳剤
 - ・塗料
 - ・接着剤
 - ・紙（用紙も含まれる） 等
- その他
- ・重量で把握可能な、製品、
コンクリート二次製品、

代表者による全体の評価と見直し・指示の記録

■ 定期見直し(事業年度終了後)

□ 臨時見直し

実施日：2025年4月25日

見直しに必要な情報				代表者による見直し																																					
管理責任者の報告及び改善への提案				変更の必要性の有無・指示事項																																					
[取り組み状況の評価結果] ①環境関連法規制等の遵守状況(環境関連法規等遵守記録による) ・2025年4月25日に定期評価を実施した結果遵守されている。 <改善への提案>				[環境経営方針] 変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無																																					
[経営目標・環境経営計画・実施体制] の達成状況 (詳細は環境活動計画書による)				[経営目標・経営計画・実施体制] 変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標項目</th> <th>目標値 達成状況</th> <th>活動計画 実施状況</th> <th>コメント (目標値・活動計画に対するコメント)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電力の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>引き続き節電に取り組む</td> </tr> <tr> <td>灯油の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>引き続き削減に取り組む</td> </tr> <tr> <td>ガソリンの削減</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>エコドライブ・アイドリングストップの励行</td> </tr> <tr> <td>軽油の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>エコドライブ・アイドリングストップの励行</td> </tr> <tr> <td>一般廃棄物の削減</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>分別の徹底とリサイクル</td> </tr> <tr> <td>産業廃棄物の削減</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>引き続き削減に取り組む</td> </tr> <tr> <td>節水</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>使用状況とルールへの遵守</td> </tr> <tr> <td>ネプラス工法</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>ホームページに掲載し幅広く公表</td> </tr> </tbody> </table>				目標項目	目標値 達成状況	活動計画 実施状況	コメント (目標値・活動計画に対するコメント)	電力の削減	○	○	引き続き節電に取り組む	灯油の削減	○	○	引き続き削減に取り組む	ガソリンの削減	△	○	エコドライブ・アイドリングストップの励行	軽油の削減	○	○	エコドライブ・アイドリングストップの励行	一般廃棄物の削減	○	○	分別の徹底とリサイクル	産業廃棄物の削減	△	○	引き続き削減に取り組む	節水	-	-	使用状況とルールへの遵守	ネプラス工法	-	-	ホームページに掲載し幅広く公表	[その他] 変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
目標項目	目標値 達成状況	活動計画 実施状況	コメント (目標値・活動計画に対するコメント)																																						
電力の削減	○	○	引き続き節電に取り組む																																						
灯油の削減	○	○	引き続き削減に取り組む																																						
ガソリンの削減	△	○	エコドライブ・アイドリングストップの励行																																						
軽油の削減	○	○	エコドライブ・アイドリングストップの励行																																						
一般廃棄物の削減	○	○	分別の徹底とリサイクル																																						
産業廃棄物の削減	△	○	引き続き削減に取り組む																																						
節水	-	-	使用状況とルールへの遵守																																						
ネプラス工法	-	-	ホームページに掲載し幅広く公表																																						
<改善への提案> ・ガソリン、軽油の使用料削減のため、燃費向上車、排気ガス対策型 機械への入替の検討 ・運行記録管理等の実施と、点検整備を確実に行う				[総括](環境活動レポートの代表者による全体の評価と見直しの欄に記載) ● 全体評価 (1)環境経営方針 環境経営方針についての変更はありません。 (2)環境関連法規等の遵守状況 法規等の遵守評価については問題ありません。 (3)環境経営目標の達成状況 二酸化炭素排出量・電力使用量・軽油使用料・灯油使用量は削減目標を達成できたが、ガソリン使用量・水使用量は達成できなかったため、今後も削減に努めるとともに、来年度に向け、ガソリン車のハイブリッド車への入替を進める。 ノー残業デーの励行、休日出勤時の代休取得の励行に取り組んでいく。 (4)環境活動計画の実施状況 スケジュール通りに実施されています。 (5)外部からの苦情等への対応 特にありません。 (6)その他 特にありません。																																					
[周囲の変化の状況] ①外部コミュニケーション記録より 該当なし ②環境関連法規制等の動向他 該当なし <改善への提案>				● 見直しの結果 ○昨年同様化石燃料削減に向け、手直し工事ゼロの目標に施工を行っていく。 ○各自の技能向上により、作業効率を上げ、CO2排出量の少ない工事を旨とする。 ○使用機械や車両のハイブリッド車・低排出ガス機械等への買い替えを進めていく。 ○残業の圧縮努力や休日の増加により、環境負荷を減少させる。 総労働時間が減ったことで、生産性が落ちることのないように、無駄を省いて、効率の良い作業をする。 ○ガソリン使用量の削減が未達成のままだが、原単位では削減できていたため、今後も意識して削減に取り組んでいく。 ○社員とその家族が健康に過ごしていけるよう健康経営に力をいれていく。 ○全体を通して目標の達成ができていたので引き続き取り組みを意識していく。																																					
代表者が自ら得た情報																																									